

JAHIS

会誌

2025.8

75 号



目次

巻頭言	理事	國光 宏昌	2
JAHISひろば	ハマる趣味のうつろい	大江 和彦	4
2025年度 JAHIS役員紹介			10
新任役員のご紹介	副会長	坂野 高士	12
	監事	南 英知	13
特集／トピックス	2025年 第15期定時社員総会&懇親会の開催報告	寺崎 貴宏	14
	事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告		16
部会から	2024年度 活動トピックス	大橋 正	19
	HIMSS25報告	井出 大介	22
	マスタ委員会の取り組みについて	二階堂 誠	26
		後藤 知孝	
		古川 成道	
		齊藤 達也	
	JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0Cの紹介とその後 PHR基本的指針の改定について	千葉 信行 鹿妻 洋之	32 35
2024年度 表彰受賞者の紹介			39
運営状況報告	運営会議状況報告		54
	委員派遣ならびに協賛・後援等		59
新規会員紹介	株式会社ディー・ディー・エス／株式会社ブライエ／ エヌ・ティ・ティ・データ・カスタマサービス株式会社		64
事務局新人紹介	事務局 保健福祉システム部長	松谷 正俊	67
編集後記			68

ご挨拶

理事

くにみつ ひろまさ

國光 宏昌

(株)EMシステムズ

代表取締役社長執行役員



会員の皆様、平素より一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）の活動にご理解と多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

連日、厳しい暑さが続いています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。近年は、地球温暖化の影響から、老若男女問わず誰もが体感するような猛暑が続いています。気候変動による影響は、私たちの日常生活だけでなく、熱中症患者の増加や感染症の流行パターンの変化など、保健医療福祉の現場にも喫緊の課題として現れています。特に、ここ数年の熱中症による搬送者数は高齢者層で顕著な増加が見られ、これは我が国の高齢化の進展とも密接に関わっています。

我が国は、2008年の総人口をピークに人口減少が続き、高齢化は世界に類を見ないスピードで進んでいます。内閣府「令和7年版高齢社会白書」によれば、2024年には高齢化率が29.3%に達しており、今後も増加の一途を辿る見込みです。このような状況に対し、厚生労働省は「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」において、人口減少時代における生産性向上を目指し、「総就業者数の増加」と「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場」の実現に向けた検

討を進めています。同時に、人生100年時代に対応した社会保障の持続可能性確保のため、「健康寿命延伸プラン」や「医療・福祉サービス改革プラン」も推進されています。これらの喫緊の課題に対応するためには、情報技術の活用が不可欠です。特に、保健医療福祉分野におけるデジタルトランスフォーメーション、すなわち医療DXの推進は、持続可能で質の高い医療提供体制を構築するための喫緊の課題となっています。医療DXの背景には、医療情報のサイロ化、医療現場の業務負担軽減、そして国民自身の健康増進への意識向上といった多様なニーズがあります。これまでも医療分野におけるIT化は進められてきましたが、各医療機関のシステムが独立しており、情報連携が不十分な点が課題でした。このような状況に対し、国は「医療DX令和ビジョン2030」を提言し、具体的な取り組みを進めています。2019年9月には厚生労働省「データヘルス改革推進本部」により、「ゲノム医療・AI活用の推進」「自身のデータを日常生活改善等につなげるPHRの推進」「医療・介護現場の情報利活用の推進」「DBの効果的な利活用の推進」という4つのデータヘルス改革の方向性が示されました。そして、「医療DX推進に関する工程表」に基づき、「全国医療情報プラットフォームの構築」をはじめとする基盤整

備と段階的な活用が開始されています。これにより、医療機関間の情報共有の円滑化、国民一人ひとりの医療情報の効果的な活用、そして医療現場の業務効率化が大きく期待されています。私たちJAHISは、これらの国の動きと足並みを揃え、医療DXの実現に向けて積極的に貢献していく所存です。

JAHISはこれまで、保健医療福祉情報システムの将来ビジョンを検討し、会員の皆様、そして関係団体・機関に提示してまいりました。1994年の創立以来、私たちは保健医療福祉情報システムに関する技術の向上、品質および安全性の確保、標準化の推進を図ることで、健康で豊かな国民生活の維持向上に貢献してまいりました。JAHISは2024年4月に創立30周年を迎えました。5年前には「2030ビジョン」を策定いたしました。この5年間で進展した政府施策とその成果、そして国民の生活環境の変化、特に全国医療情報プラットフォームの全体像を深く検証し、その解像度を高めた「2030ビジョン（改訂版）」を本年1月に策定いたしました。これは、JAHIS創立30周年という節目に、私たちの未来への強い決意を示すものです。また、創立30周年記念事業の一環として、JAHISが掲げる「データ循環型社会」を紹介する絵本を制作いたしました。保健・医療・福祉分野における情報システムの重要性をご理解いただき、未来への希望を育んでいただければと願っております。

これからもJAHISは、保健医療福祉情報システムの発展を通じて、健康で豊かな国民生活の実現に貢献してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

ハマる趣味のうつろい

東京大学名誉教授

おお え かず ひ こ

大江 和彦



オオムラサキと榎

国蝶を知っていますか？。コクチョウ？国鳥？いえいえ国蝶です。日本の国蝶であるオオムラサキは「蝶の王様」と呼ばれ、力強い翅（はね）（ハネ：昆虫類が持っている飛ぶための装置を特にこの漢字で書きます）をはばたかせる日本最大のタテハ蝶（立て翅蝶）科に属する美しい蝶で、かつては75円切手のデザインでした。蜜の出るクヌギなどの木の高い枝に止まることが多く、個体数が少ないこともあって巡り合うことも滅多になく、子供にとって捕獲は非常に難しい対象でした。稀に捕獲できても標本にできるような傷みのすくない綺麗な羽の個体はなかなか手に入りません。

大阪北部の山奥に住んでいた小学生の私は、学校から帰ると毎日のように野山で蝶を求めて捕虫網を振り回し、傷んでいない翅を持つ蝶が捕れれば、その展翅

標本（両翅を広げた姿の標本）を作って標本箱に並べていました。ここは当時オオムラサキが棲む数少ない田舎でしたから、子供にとって当然一度は採集してみたい蝶です。

食樹という語をご存知でしょうか。植食性昆虫、特に蝶が幼虫の時に食べる植物、樹のことです。あるとき図鑑を調べていてオオムラサキの食樹はニレ科の樹である「榎（エノキ）」で、落葉樹である榎の根本に溜まる落ち葉に3齢（2回脱皮した）幼虫が隠れて越冬することを知りました。そこで越冬している幼虫を採取し育てて羽化させようと企てました。幸い、山の中にある巨大な榎の根本から幼虫を見つけることができたのですが、春以降、榎の葉を食べ続ける幼虫を育てるために毎日のように枝をとってこなくてはなりません。

もうひとつ問題がありました。この幼虫は榎の葉をひ



日本の国蝶をデザインした75円切手
2024年9月30日をもって販売終了
となった（残念!）日本郵便趣味協会
ホームページより。



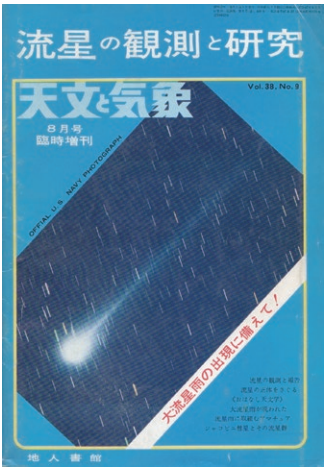
オオムラサキ（雄）と榎の葉
(http://blog.livedoor.jp/nara_suimeishi/
榎 水明子さんのblog 2015年11月19日のページから
の引用)
このblogページは本文と関連のある内容で興味深い。

とつ選んでそこに糸を貼りめぐらせた座布団のようなものを作り上げて鎮座し、別の枝に葉を食べに出かけていき、食べたらずまだ戻ってくるという習性があるのです。そのため毎日のように新しい枝をあてがうと、鎮座する場所を決められなくなり、弱って死んでしまいます。

この問題を解消するため、近所の植木屋さんのお爺さんをお願いして家の庭に小さな榎を植えてもらい、この榎に鳥除け目的の大きな網袋を被せて、幼虫をその中で飼育（というか放し飼い）し観察することにしました。1年目はそれでもなぜか行方不明になり失敗でしたが、2年目は成功し、サナギを経て立派なやや小ぶりの成蝶を誕生させることができました。「情が移る」とはよく言ったもので、結局この美しい蝶を標本にすることはさすがに忍びなく、野山に飛んでいく雄姿を眺めて涙する結末でした。それから1-2ヶ月後に山で採取した翅が痛んでいない個体が私の標本箱には眠っています。もしかしたら実は私が育てた同一個体が私の手元に帰ってきたのかもしれないと今も思っています。

流れ星とほうき星

中学生くらいになると、蝶を指で圧殺して標本を作ることがなんとなく辛くなってきました。健全な心の成長だったのでしょうか。そう感じたときから蝶集めは急速に冷めてしまい、自然に囲まれた環境で夜空を眺め、星座を覚えるようになっていきました。そうした1972年夏に本屋で一冊の聞きなれないタイトルの雑誌が目がいきました。「流星の観測と研究」です。表紙を飾るのはその年の夏に太陽に接近していたジャコビニ彗星と、「大流星雨」という言葉でした。彗星、俗に言う「ほうき星」のひとつが太陽と地球に接近し、その通りさった軌道を1972年10月8日夜に地球が横切るため、彗星が撒き散らしたゴミが地球に雨のように降り注ぎ、流れ星の雨（1分あたり数千個以上）が見られるに違いないという予報記事満載の雑誌だったのです。



天文と気象
1972年8月臨時増刊号
同年10月8日夜に期待されたジャコビニ流星雨に備えようという天文雑誌。流星雨とは1分に数百個から数万個の流れ星が降り注ぐ現象が1時間から数時間続く稀なイベント。

流星も彗星も見たことのなかった私は、この予報に釘付けになり10月8日の夜を迎えました。ワクワクで夜も眠れず一夜を明かしましたが、残念ながらほぼ全国的に流星雨ならぬ雨模様と曇り空となってしまう、晴れた一部地域でも流星雨など何も起こらなかったのです。流星雨の予報は完全に外れたわけです。1969年にアポロ11号が月着陸に成功した直後でしたから、宇宙の天体の軌道など計算でなんでも予報ができるものと思い込んでいた私は、この予報が外れたことに不思議さを覚え、それが私を流星と彗星の観測の道に引きずり込みました。

アマチュア流星観測者の愛好家グループである日本流星研究会（N.M.S）という団体の存在を知り、そこに入会して、晴れていれば毎夜々、星座を眺めて流星の経路を星図に鉛筆で記録し、時刻と明るさを記載し、

☆ 観測月報 Monthly Report of N.M.S. in July 1974. (No. 217) Y. Yabu.
1974年7月の観測結果の概要を示す。第1表は 観測者別集計で、Plotは 星図に記入したもの。See は 左表以外の流星を示す。

第1表 Total of the Meteor Observations in July 1974										第2表			
氏名	観測地	観測回数	観測時間	流星数	Plot	Seen	Total	夜	夜明け	夜	夜明け	夜	夜明け
石川 昌	横浜市港北区	7	5.05	15	3	18		1~2	—	—	—	—	—
森 謙	群馬県前橋市	4	8.5	2	0	2		2~3	—	—	—	—	—
田村 大雄	大坂府大阪市	3	13.5	5	3	8		3~4	—	—	—	—	—
大江山 秀	〃 池田市	5	5.80	28	16	44		4~5	—	—	—	—	—
河西 純一	長野県飯田市	1	4.0	0	2	2		5~6	—	—	—	—	—
上村 敏夫	新潟県北蒲原郡	2	15.0	10	2	12		6~7	—	—	—	—	—
小林 明治	岩手県北上市	2	12.0	3	2	5		7~8	—	—	—	—	—

日本流星研究会の毎月の回報（1974年7月号）
1ヶ月に5夜、合計580分観測して、経路を星図に記入した流星28個、記入せず見ただけの流星16個、合計44個を観測したことが報告されている。

数を数える日々が中学高校の生活でした。毎月届く観測月報に自分の名前と観測時間や流星数が載るのを楽しみにする毎月でした。なんとまあネクラな趣味でしょうか。

もうひとつ興味の対象は、その流星の元となるゴミを太陽系にまきちらす彗星です。流星は彗星がまきちらした太陽の周りを周回する小さなゴミ（1ミリ以下から数ミリ）が地球に落ちてきて大気圏で空気との摩擦により燃え尽きてしまう超高層大気現象（地上数十キロ）で、彗星は太陽の周りを周回するれっきとした天体です。有名なハレー彗星や、上記のジャコビニ彗星のように数年から数十年周期で太陽の周りを回るものもありますが、遠方から接近してきて永遠に遠ざかるという一回限りの彗星もあります。この後者のタイプの彗星はたいてい偶発的に見つけられ、個人の名前がつけられ、去っていきます。私が流星に興味をもってから3年後の1975年にウエスト彗星という明るい大きな彗星が偶発的に見付き3月5日ころから10日間ほど朝焼けの空にマイナス3等星くらいで見えるようになりました。近所の



明け方の空に輝くウエスト彗星（1975年3月5日）
大阪府池田市にて。アサヒペンタックス SP 55mm F1.8写真は中央部だけをトリミングして拡大。

見晴らしの良い場所まで山登りをして生まれて初めて撮影できたウエスト彗星の写真は私の宝物になりました。その後も、まあまあのサイズの彗星が見えたことはいくつかありましたが、ウエスト彗星ほど目に焼き付く明るさの彗星は今だにありません。

余談ながら、昨2024年10月に久しぶりに紫金山・アトラス彗星が地球に接近し明るくなってくれました。ウエスト彗星ほどではないにしろ、久しぶりに写真撮影を楽しめた彗星でした。



夕空の雲間に輝く紫金山・アトラス彗星
2024年10月15日18:18 神奈川県三浦市三戸海岸にて。(OLYMPUS E-M1MarkIII 17mm f/2.8 2.5秒 ISO2500) 色調補正処理。周りの薄雲のほうが綺麗という人もいますが、中央で尾を引く彗星がうまく印刷に出るかな。

流星は医療情報学のきっかけ

流星を数十キロ離れた2ヶ所から写真を撮り、片方のカメラのレンズの前に扇風機のような羽根を正確な回転数で回すと、線状に移るはずの流星が点々に細切れに写ります。4枚羽根を毎秒20回で回せば毎秒80回カットが入る計算になりますから、流星が20個の点で写っていれば、4分の1秒つまり0.25秒で飛行したことがわかります。2ヶ所で撮影できていれば三角測量の要領で飛行位置や距離や地球への突入角度がわかるので、距離を0.25秒で割ることで飛行速度も分かり、逆算していけば地球に落ちてくる前の太陽系の軌道が求まります。三角関数を含む大変な計算量ではありません。

すが、電卓しかない時代にこれを求めることにハマってしまった高校生の私は、大学に入学するやいなや天文サークルに入ってチームを二分割し、乗鞍岳と柵池高原の2ヶ所から流星写真を撮る合宿を企画してもらって両地点の真ん中あたりの上空を流れる流星を両方から撮影しようと思いました。当時、最も協力的だったのは、1 学年後輩で、その後に国立天文台教授になり広報も担当されていた渡部潤一さん（現在、自然科学研究機構国立天文台上席特任教授）でした。

1ヶ所が天候に恵まれなかったり、肝心の流星が飛んだときに片方のチームが夜食を食べていたり、カメラの方向が少しずれていたり、いろいろあって、結局のところうまくいかなかったのですが。

流星や彗星の軌道を計算するには電卓ではなかなかしんどい時代を経て、1977年ころからマイコン（今のパソコンの初期モデル）が世の中に出始めました。これにとびついてシャープMZ80Kを買って流星の軌道計算プログラムを作成していた私は、大学生活のほとんどの時間を割いてマイコン、そしてその後のパソコンのプログラム作成にハマってしまいます。計算することよりも、プログラムを作成して自分がイメージするものを作り出すことが楽しかったのでしょう。しかし、これは趣味でとどまらず、結局は自分の職業の方向性を決定づけることになり、仕事そのものになってしまったので、趣味でなくなっていました。

しかし、あの日「流星の観測と研究」雑誌を本屋で見かけなければ、私は医療情報学を始めていなかったことでしょう。

太陽と月の結婚「皆既日食」

皆既日食はあらかじめ日時と場所がわかっている壮大な天文現象です。昼間に見えるはずの太陽と地球上の我々との間に月が割り込んできて太陽を完全に隠す皆既日食。太陽が完全に隠れる直前と出現する直後



皆既日食のダイヤモンドリング
2017年8月21日アメリカ・グランドティートン国立公園にて。

に見られる強烈な光の漏れが作り出すダイヤモンドリング、この時にしか見られない暗黒の太陽と周りの巨大なコロナ。どれをとっても驚異的な光景が数分間という短い時間に刻々と進行し、見る人は歓声と恐怖と驚愕と感動に引きずり込まれ、太陽の光が戻ったあとしばらくの間、呆然自失状態になり、自然と涙が頬を伝う。

仕事が忙しくなってくると、東京に住んでいる身では流星観測や星座写真を撮ることになかなか時間が割けなくなってきました。大学4年の1981年夏にバイカル湖の近くで初めて皆既日食現象に身を置いて呆然自失を味わった経験のあった私は、世界のあちこちに皆既日食を求めて出かけてはアドレナリン枯渇現象を体験してくることにハマってしまいました。

1990年7月のソ連・北極圏日食で雨の中、ソ連空軍の30人乗りプロペラ機で上空2800mまで連れて行ってもらって雲間から必死に見たコロナ、1997年3月の氷点下10度のモンゴルのパオ（テント）に寝泊まりしたが結局曇りで見られず、終わってから晴れてきた旅（美代先生と一緒にだった）、カダフィー大佐のわがままに振り回され旅程が二転三転した後にサハラ砂漠のテント泊で見た2006年3月29日の素晴らしい皆既日食、などなど脳裏に今でも焼きついています。2035年の北関東横断の皆既日食をぜひご覧いただきたいと

思います。写真技術の発達した今でも、この神秘的現象は写真やテレビでは全く表現され得ない美しさですから、肉眼と低倍率の双眼鏡でお楽しみください。

回	日付	場所	晴れ○／曇り×
1	1981/7/31	ソ連／バイカル湖・ブラーツク	○
	1987/9/23	日本／沖縄本島（金環日食）	○
2	1988/3/18	インドネシア／スマトラ・パレンバン	○
3	1990/7/22	ソ連／シベリア・北極圏	△
4	1991/7/11	メキシコ／サンホセデルカボ	○
5	1995/10/24	タイ王国／アユタヤ	○
6	1997/3/9	モンゴル	×
7	1999/8/11	ルーマニア／ブカレスト	○
8	2001/6/21	ジンバブエ／ハラレ空港	○
9	2006/3/29	リビア／サハラ砂漠	○
10	2009/7/22	中国／広州	×
11	2010/7/11	クック諸島／マンガイア島	×
	2012/5/20	日本／東京（金環日食）	○
12	2017/8/21	アメリカ／グランドティトン国立公園	○
13	2024/4/8	アメリカ／ダラス動物園	○
	2026/8/12	スペイン	？
	2027/8/2	スペイン、モロッコ、エジプト	？
	2028/1/26	スペイン（金環日食）	？
	：	この間省略	
	2035/9/2	能登半島～北関東～水戸	？

金環日食は回数にカウントせず。

私の皆既日食旅の履歴。
金環日食を除いて13戦で10勝3敗と称している。来年以降は願望状態。

海中の神秘

「一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。永遠に、幸せになりたかったら、釣りを覚えなさい。」これは作家の開高健が著書の中で、中国の格言として紹介したといわれている名言?です。

15年ほど前、たまに仕事を一緒にしていたある方が、船に乗って東京湾のシロギス釣りに連れて行ってくれました。それをきっかけに釣りの面白さにハマった私は、最初は東京湾の堤防でのウキ釣りを始めました。魚をおびき寄せるコマセを詰め、その下に餌をつけて堤防から投げるウキ釣りは、波間に揺れるウキが前触れも無く海中に引きずり込まれて消えてしまう、その瞬間のアドレナリン噴出が私を虜にしました。毎週のように横須賀うみかぜ公園に行き、サバやアジを数匹釣っては、自分で捌いて食す。テレビで見る無人島の濱口

と大して変わりのない挙動でした。魚屋で買う魚は釣り上げられてから少なくとも1日、普通は2日以上経っていますが、自分で釣る魚は6時間以内に食べられるわけで、魚種によっては全く違う食べ物と思うくらいに美味しい。

そのうちもっといろいろな魚種を釣りたくなったら、もう堤防では満足できません。毎週のように、あるいは2日連続で東京湾の釣船に乗っては、シロギス、アジ、マダイ、マゴチ、イナダ、ワラサ、カサゴ、メバル、五目釣り（なんでも）と片っ端から船に乗り、さらに千葉外房の海に前夜から高速バスで出かけて明け方のヒラメ釣りに熱中、と魚種を広げていく羽目になりました。

釣りはいろいろ道具が必要で、船でほぼ全部借りて手ぶら釣りもできるのですが、やはり自分で買った道具で釣るとするのも趣味ならではのでしょう。釣り道具会社の計略にハマり、あつというまに魚種の数だけの釣り竿を所有する釣りバカになってしまった私は、ついには地方で開催される医療情報学会にも釣り竿をポスターセッションのポスターを入れる筒に隠し、海に近いホテルをとり、朝釣りをしてから学会場に行くといった時期もありました。まさに浜ちゃんですね。後ろ姿を見られてしまったこともあったようですが、ご愛嬌。



2015.6.7 徳島県鳴門「つるぎ丸」にて
鯛かぶらによる真鯛釣り。
40cmくらいか。このサイズ位が美味しい。

釣船は自分の釣りたいと思うところに留まってくれないので、自分で船を操縦したいと思うようになってしまい、10年ほど前には小型船舶操縦免許までとってしまいました。でも、実際には操縦と釣りの両方、二兎を追うことはできないものでした。

最後に「趣味たり得る度」

趣味って不思議なもので、趣味になりうる対象や活動とはどのようなものなのだろうかと考えることがあります。魚釣りだと、毎回大量に漁れると面白くないでしょう。漁業とは違うのです。やったことはないが、ゴルフをボールをたたいて穴に放り込むゲームだと捉えると、近距離から大きなバケツのような穴にたたいて入れる方が楽だがそれではなぜか趣味になりません。また、毎回同じだと面白くなく、異なるゴルフ場で毎回違う風が吹くことも偶然性への挑戦意欲を高めて面白くなるのでしょう。このように考えると趣味が趣味たりえる多次元の要因変数があって、それらの総合的スコアで「趣味たり得る度」を計算できそうです。そこで chatGPT ともディスカッションをして次のようなスコア計算式を考えました（大江+ChatGPT-4oオリジナル合作）。

この式にもとづいて

- 1) 蝶を幼虫から育てて採取標本にする趣味
 - 2) 流星を写真観測してその軌道を計算する趣味
 - 3) 皆既日食を見るために世界を旅する趣味
- の「趣味たり得る度」を chatGPT-4o に計算させ評価をコメントさせてみると、

- ・蝶の飼育 0.758 とても趣味たりうる
- ・流星観測と軌道計算 0.720 趣味として十分可能
- ・皆既日食のための旅 0.755 情熱型の強い趣味として成立

となりました。ちなみに魚釣りは0.81でした。

みなさんの趣味の「趣味たり得る度」はいかがでしょう？

Hobby Suitability Score (HSS)=ws・S+wc・C+wo・O

各スコア（S、C、O）は表のような要因から構成され、それぞれの要因を0以上1以下の点数でつけて各スコア内で平均値を各スコアとする。

ws,wc,wo：それぞれのスコアの重要度を表す重み（デフォルトで合計が1になるように調整）。例えば0.5、0.4、0.1とする。

- ・ HSS ≥ 0.7：十分に趣味たりうる
- ・ 0.5 ≤ HSS < 0.7：条件次第では趣味として成立し得る
- ・ HSS < 0.5：一般には趣味としては成立しにくい

「趣味たり得る度」HSSの構成スコアと要因変数

S: 主観的要因（個人内要因）スコア (Subjective factors)

- ・ 楽しさ：その活動が本人にとって快樂や喜びをもたらすかどうか
- ・ 没入感：時間を忘れるほど集中できる体験が得られるか
- ・ 自発性：強制ではなく、自らの意思で行っているか
- ・ 自己表現性：自分らしさや価値観を表現できる余地があるか
- ・ 技能向上の余地：上達やスキルの深化が期待できるか
- ・ 達成感：ゴールや成果があり、それに達する満足があるか

C: 客観的・社会的要因スコア (Contextual/Social factors)

- ・ 文化的認知：一般に「趣味」として認識されやすい活動であるか
- ・ コミュニティの存在：同じ活動をする他者とのつながりが得られるか
- ・ 情報アクセス性：活動に関する情報や教材が入手しやすいか
- ・ コストの許容範囲：時間的・金銭的なコストが手に負える程度か
- ・ 反復可能性：継続的に繰り返し楽しめるか
- ・ 場所・環境の確保性：実施できる場所や機会が確保できるか

O: 補足的要因スコア

(Optional/Auxiliary factors)

- ・ 社会的評価：他人から「良い趣味だ」と評価されやすいか
- ・ 実用性：実生活において何らかの役に立つ要素があるか
- ・ 独自性・希少性：他人と違う、自分だけの特別感があるか

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 2025年度役員紹介

会 長 長堀 泉

富士通Japan(株)
代表取締役社長



副 会 長 高橋 秀明

ウィーメックス(株)
代表取締役社長



新任

副 会 長 坂野 高士

(株)NTTデータ
執行役員
第四公共事業本部長



副 会 長 柿沼 良彦

キヤノンメディカルシステムズ(株)
医事推進室 主席



副 会 長 浅見 英徳

日本電気(株)
医療ソリューション統括部長



副 会 長 先崎 心智

日本アイ・ビー・エム(株)
IBMコンサルティング事業本部
ヘルスケア・ライフサイエンスサービス 理事・パートナー



副 会 長 成行 書史

富士フイルム(株)
メディカルシステム事業部
ITソリューション部長



理 事 國光 宏昌

(株)EMシステムズ
代表取締役社長執行役員



理 事 竹村 幸治

コニカミノルタ(株)
ヘルスケア事業本部
開発統括部長



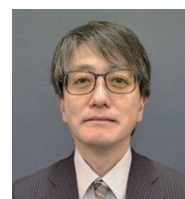
理 事 田中 啓一

日本事務器(株)
代表取締役社長 CEO



理 事 長谷川 裕明

(株)ファインデックス
取締役・コンサルティング部 部長



監 事 遠藤 憲人

(株)医療情報システム
官公庁営業部 部長



新任 監 事 南 英知

三菱電機デジタルイノベーション(株)
理事 流通・ヘルスケア事業 副統括



副会長、理事、監事の順序は会社名の50音順による。

ご挨拶

副会長

さかのたかし
坂野 高士

(株)NTTデータ

執行役員 第四公共事業本部長



このたび、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の副会長に就任しましたNTTデータの坂野 高士です。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国は今、少子高齢化や医療従事者の人材不足、地域格差など、保健医療福祉分野において多くの課題に直面しています。こうした中、本年6月13日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025（骨太方針2025）」において、医療DXの推進が国家的な重点施策として位置づけられ、全国医療情報プラットフォームの構築、電子カルテ情報共有サービスの普及や電子処方箋の利用拡大、診療報酬改定DXなどを加速させる方針が明確に示されています。

このような変革の時代において、JAHISが掲げる「2030ビジョン」は、まさにその中心に位置するものです。JAHISは、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指し、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに活動を展開しています。これは、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環・利活用することで、データ提供者である国民がその恩恵を享受できる社会の構築を目指すものです。国民が自身の健康・医療情報を主体的に管理・活用し、

医療従事者と連携することで、予防・治療・介護を一体的に行える社会の実現を目指しています。JAHISは、標準化、セキュリティ対策、情報連携基盤の整備などを通じて、医療情報システムの信頼性と持続可能性を支える重要な役割を担っています。

近年、生成AIの進展が医療現場にも新たな可能性をもたらしています。例えば、自然言語処理を活用した問診支援や医療文書の自動要約、患者とのコミュニケーション支援など、医療の質と効率の両面で貢献が期待されています。これらの技術は、医療従事者の業務負担を軽減し、患者とのより質の高い関係構築にも寄与するものと考えられます。骨太方針2025と同日に閣議決定された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版」に示された「省力化投資促進プラン」においても、AI技術の活用が医療現場の課題解決策として具体的に示されており、JAHISとしてもその実装と運用支援に向けた役割がますます重要になってくると感じております。

今後、「JAHIS2030ビジョン」および「骨太方針2025」に示された医療DXの実現を目指し、JAHIS会員の皆様と力を合わせて貢献してまいりたいと思います。会員の皆様のご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

監事

みなみ えい ち

南 英知

三菱電機デジタルイノベーション(株)

理事

流通・ヘルスケア事業 副統括



一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、JAHISの監事に就任いたしました、三菱電機デジタルイノベーション株式会社の南と申します。まずは、皆様のご支援とご協力に深く感謝申し上げます。これまでこのような立場での活動経験もなく右も左もわからないところからのスタートですが、JAHISの益々の発展と日本の医療DX推進のために全力を尽くしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、JAHISで中期計画の中で、『2030年ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進』

『JAHIS参加価値の追求、健全な市場の維持発展』、『JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立』という運営方針を掲げています。特にヘルスケアICTの実現においてはデータ循環型社会の実現に向けて、データの効果的な利活用を促進し、社会全体の情報化を推進したいと考えています。そのために異なるシステム間での情報連携を可能にする標準化されたシステムの提供を進めると共に、生成AIやビッグデータなどの先端技術を活用し、医療・福祉サービスの質を向上させることを目指していきます。

当社三菱電機デジタルイノベーション株式会社は三菱電機の情報部門と3つのIT系関連会社が統合し2025年4月に発足した、デジタル人材約6,000名の新しい会社で、医療・福祉、製造業、エネルギー、交通など、さまざまな産業分野においてデジタル技術を通じて社会に貢献し続ける企業を目指しています。

JAHISの目指すビジョン達成に向け、さまざまな局面でお役に立てるところも多いかと思っておりますので、会員の皆様と協力し合い、技術革新と標準化の推進に努め、より良い医療環境の実現を目指して努力してまいります。

今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。共にヘルスケアICTの未来を築いていきましょう。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年 第15期定時社員総会& 懇親会の開催報告

事務局 総務部長

てらさき たかひろ

寺崎 貴宏



定時社員総会

6月10日（火）10時45分より東京大手町の経団連会館4階ダイヤモンドルームにおいて、第15期定時社員総会を開催しました。

当日は会員374社中283社（委任状含む）の参加を得て、議長の長堀 泉会長（富士通Japan(株)代表取締役社長）による進行で議案を審議しました。

会場にて参加された会員代表者と代理人及び委任状数を集計した結果、審議に必要な議決権行使数は満たされ、全ての議案が承認可決されました。



議長 長堀泉会長



司会を務めた岩津聖二
運営会議議長

当社員総会で審議された議案は以下のとおりです。

第1号議案	2024度事業報告の件
第2号議案	2024度計算書類承認及び監事監査結果報告の件
第3号議案	2025度事業計画承認の件
第4号議案	2025度収支予算承認の件
第5号議案	役員選任・補欠役員選任の件
第6号議案	定款改定の件



また、2024年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等において、非常に貢献のあった方、そして幹部として長年JAHISを支えていただいた方を称える表彰式を行いました。

- ・奨励賞（個人）：3名 ・奨励賞（連名）：1組（3名）
- ・功績賞（個人）：10名 ・功績賞（連名）：2組6名
- ・功績賞（グループ）：1グループ16名 ・幹部功労：3名

の合計41名が受賞されました（詳細は、「2024年度表彰受賞者の紹介」をご覧ください）。

臨時理事会

社員総会終了後に臨時理事会を開催し、坂野高士理事が副会長に選定されました。

副会長 坂野高士（株）NTTデータ 執行役員 第四公共事業本部長

懇親会

12時から、小林俊夫 事業企画推進室長の司会により、以下のプログラムで懇親会を執り行いました。

来賓25名を含めて160名を超える方々にご参加いただきました。

会長挨拶	
JAHIS会長	長堀 泉
来賓ご挨拶	
厚生労働省 老健局 老人保健課 課長	松岡 輝昌様
経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長	橋本 泰輔様
デジタル庁 国民向けサービスグループ 次長	三浦 明様
（一財）医療情報システム開発センター理事長	山本 隆一様
中締め	
JAHIS運営会議議長	岩津 聖二



長堀 泉 JAHIS会長



厚生労働省
老人保健課長
松岡 輝昌様



経済産業省
ヘルスケア産業課長
橋本 泰輔様



デジタル庁
国民向けサービスグループ次長
三浦 明様



（一財）医療情報システム
開発センター理事長
山本 隆一様



お知らせ

「2026年新春講演会&賀詞交換会」は、2026年1月21日（水）16:00からイイノカンファレンスセンターで開催いたします。

事業推進部

ホスピタルショウ委員会報告

国際モダンホスピタルショウ 2025の開催

6国際モダンホスピタルショウ 2025は、一般社団法人日本病院会、および一般社団法人日本経営協会（NOMA）主催のもと東京ビッグサイトにて開催されました。

ホスピタルショウへの展示状況としては、JAHIS会員も含め187ブースと多くの出展がありました。今年は主催者企画として「医療健康情報の共有によるパーソナライズドヘルスケアの未来」といった健康情報やPHRなどに特化した新エリアの設置、また同時開催として「ナースまつり」も企画展示されており、より一層盛大なものとなりました。少々雨は降りましたが連日暑い日が続いたにもかかわらず、来場者数は前年より若干ではありますが増加しておりました。

テーマ 「健康・医療・福祉の新たなステージ ～いのち輝く安心社会 2025～」

開催期間/場所	2025年7月16日（水）～18日（金） 於 東京ビッグサイト西展示棟
出展社数	235社（共同出展社含む；総ブース数：187ブース）
来場者数	3日間合計；35,645名（2024年：35,408名）
オンライン開催	2025年6月2日（月）～7月31日（木）



国際モダンホスピタルショウ看板



開会セレモニー

JAHIS会員出展状況：出展社数51社

会員様の出展状況といたしましては、昨年から入れ替わりが若干ありましたが、各展示ブースにおきまして、ともに積極的に活気のあるPR展開をしていました。

出展社一覧 (50音順)

(株)アイ・オー・データ機器	(株)島津製作所
(株)アイセルネットワークス	島津メディカルシステムズ(株)
アイテック阪急阪神(株)	タック(株)
アライドテレシス(株)	中部テレコミュニケーション(株)
アレイ(株)	TIS(株)
(株)石川コンピュータ・センター	(株)ディー・ディー・エス
(株)医用工学研究所	(株)テクノメディカ
インターシステムズジャパン(株)	東亜システム(株)
(株)インテック	(株)ナイス
インフォコム(株)	ニッセイ情報テクノロジー(株)
(株)イーアイエス	日本事務器(株)
(株)エクセル・クリエイツ	日本光電工業(株)
(株)エヌデーデー	PSP(株)
OEC(株)	(株)ファインデックス
沖電気工業(株)	富士通Japan(株)
Omi Japan(株)	富士フイルムメディカル(株)
亀田医療情報(株)	富士フイルムメディカルITソリューションズ(株)
キヤノンITSメディカル(株)	(株)ヘンリー
グローリー(株)	マルマンコンピュータサービス(株)
(株)ケアコム	(株)メディサージュ
(株)コア・クリエイトシステム	(株)メドレー
コニカミノルタ(株)	(株)USEN-ALMEX
小林クリエイト(株)	(株)両備システムズ
サトーヘルスケア(株)	(株)レスコ
JBCC(株)	(株)WorkVision
(株)ジェイマックスシステム	

JAHISブース出展対応

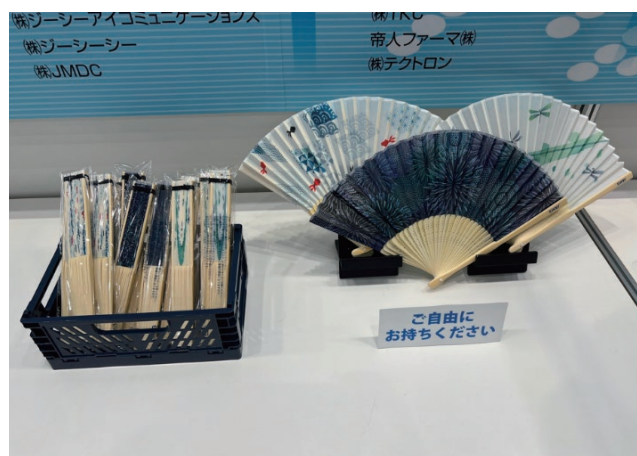
JAHISブース出展にあたり、今年は『データ循環型社会の実現に向けて医療DX推進を担う』をキャッチコピーとしてかかげ、出展検討会メンバーからの多大な協力のもと、タペストリー、パネル、配布資料などの準備を行い出展しました。新たに刷新した「2030ビジョン」の動画をモニター投影し、多くの方に訪問していただきました。また今年度新しい試みとして作成した医療機関様向けの絵本もPRさせていただき、多くの皆さまに興味を持っていただきました。

会員様向け来場イベントであるブース内に掲示した会員一覧へ貼付する花型シールの数は、結果70社以上にのぼり、多くの会員様とコミュニケーションを取らせていただきました。

ノベルティに関しましては、昨年同様扇子と冷たいミネラルウォーターを準備し、各資料と合わせて、来場者へ配布させていただき、活動のPRを行いました。



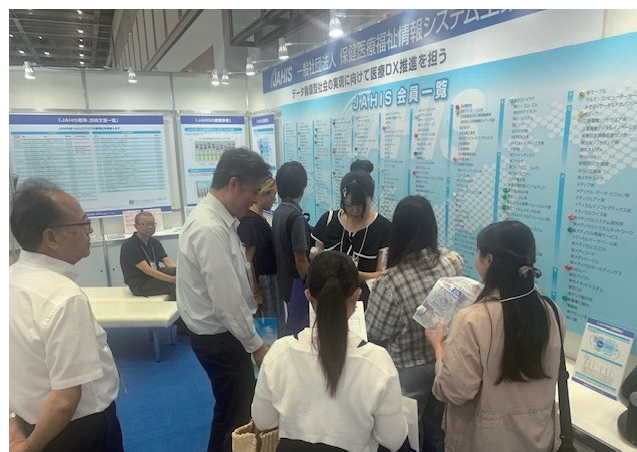
長堀JAHIS会長



ノベルティの扇子



JAHISブース1



JAHISブース2

最後に

JAHISとしてのホスピタルショーに向けた企画・出展活動は、更に多くの方々にご認識、ご理解をいただける場であり、訴求活動を継続するための重要な取り組みであることと認識しています。引き続きJAHIS活動の認知度向上、プレゼンス向上に向けて尽力して参ります。

既に来年度は2026年7月8～10日の3日間にて、同じく東京ビッグサイトでの開催が予定されております。引き続きJAHISとしても出展を行い、「データ循環型社会の実現に向けて」取り組んで参りますので、会員皆様のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

戦略企画部

2024年度 活動トピックス

事務局 運営部長 おおはし ただし
大橋 正



1. 戦略企画部集中検討会

2024年11月に、会員の皆様がJAHIS活動に対して抱えておられる疑問・困りごと・課題を解決することを目的として、戦略企画部集中検討会を5年ぶりに合宿形式で開催し2日間にわたり討議を行いました。

事前に各部会に対して課題を募集した結果、延べ128件と予想を上回る数の課題が集まり、これまで会員各位が疑問と感じながらも潜在化されていた課題の多さを痛感いたしました。JAHISの会員サイトに関するものから委員会活

動に関わるものまで、さまざまな意見が寄せられました。以下に、本集中検討会に向けて提起のありました課題の分類結果を示します。図1に示しますように、特に組織運営に関する内容が多く、全体の半数近くを占めておりました。なお、図2に組織運営に関する課題の内訳を示しますが、事務局など内部的な運営課題よりも委員会、福利厚生、JAHIS施設利用など、JAHIS活動に参加されている会員各位に関わる内容が多くを占める結果となっておりました。

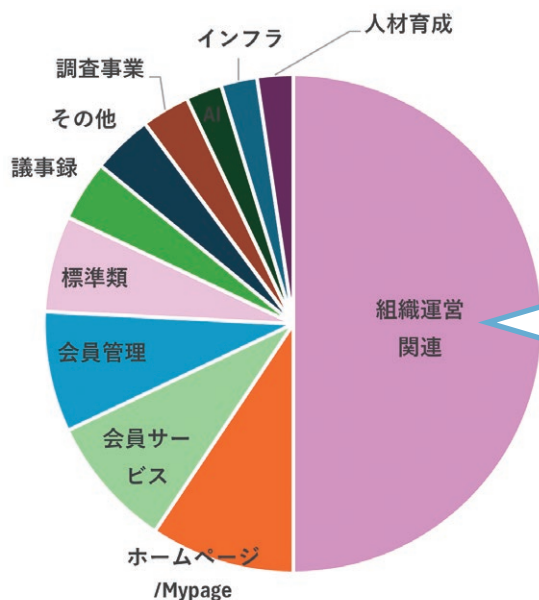


図1 検討課題のカテゴリ別分類

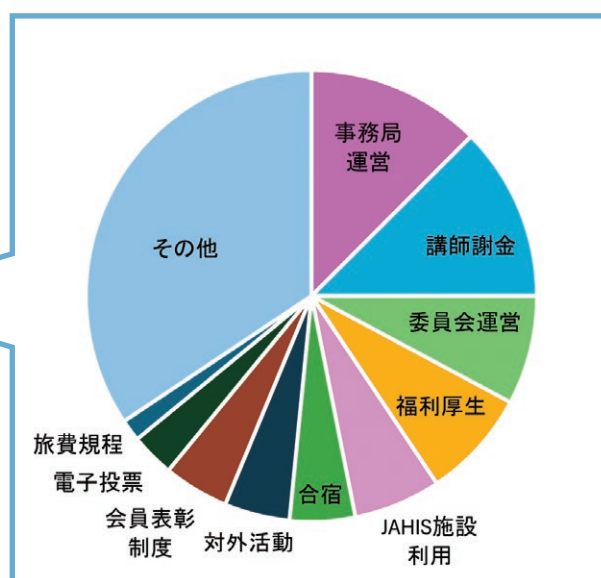


図2 組織運営関連の課題内訳

集中検討会は2日間という限られた討議期間であるため、このすべてを討議することはできませんでしたが、課題については今後も担当部会に展開され、それぞれで検

討を続けてまいります。なお、開発など期間を要するものは次期開発計画のインプットに、規程・規則改訂を伴うものは総務会協議や運営会議審議を経て、既に制定済ま



集中検討会での討議風景

たは着手しているものもあります。以下に現在、討議結果を踏まえて対応を行っている状況（表1）をご紹介します。

なお、現時点で未解決なもの、今後新たに発生する課題については次回集中検討会でも引き続き検討をしていく予定です。

表1 課題検討状況

課題	検討結果
会員サイトの操作性の改善	会員各位からの要望を踏まえ、データライブラリ、会議スケジュール管理、メール通知などの機能改善を順次計画している。特に要望が高かったファイル共有機能については2025年度に大幅な機能拡張を実装予定である。
JAHIS主催セミナーへの会員の参加しやすさ向上	2025年度 JAHIS勉強会「日本の行政動向」の無償化を試行する。
対外活動成果の会員へのフィードバック	講演等で使用した発表資料などを会員向けサイト内のアーカイブにて公開することで会員への共有を行う。
JAHIS標準類の活用促進	活用促進の前提として利用実績を把握するため、会員向けの意識調査の一環として利用状況調査を行う方向で検討する。
外部有識者への謝金の運用整理	謝金支払いの基準となる講師の肩書について、主たる組織の役職を基準とすることで統一した。また、原稿料についてもこれまで支払基準がなかったので定めた。（規程5012号「会員外講師謝金に関する規程」を改訂）
経費の決裁基準の見直し	賃貸契約、物品購入など用途に応じた予算執行の決裁基準を見直し、総務会・事務局での権限範囲を明確化することで迅速な予算執行を可能とした。（規程5015号「印章の取扱いに関する規程」を改訂）
国内旅費規程の見直し	これまで全国一律であった国内宿泊費について、地域別の実勢に合わせた金額に見直した。（規程5009号「国内旅費規程」を改訂）
海外渡航費の改定	昨今の為替状況などを踏まえ、学識経験者の海外渡航費のJAHIS負担基準を見直した。（規程3005号「学識経験者への国際標準化団体合参加依頼に関する細則」を改訂）

2. 2024年度 戦略企画部業務報告会／特別講演

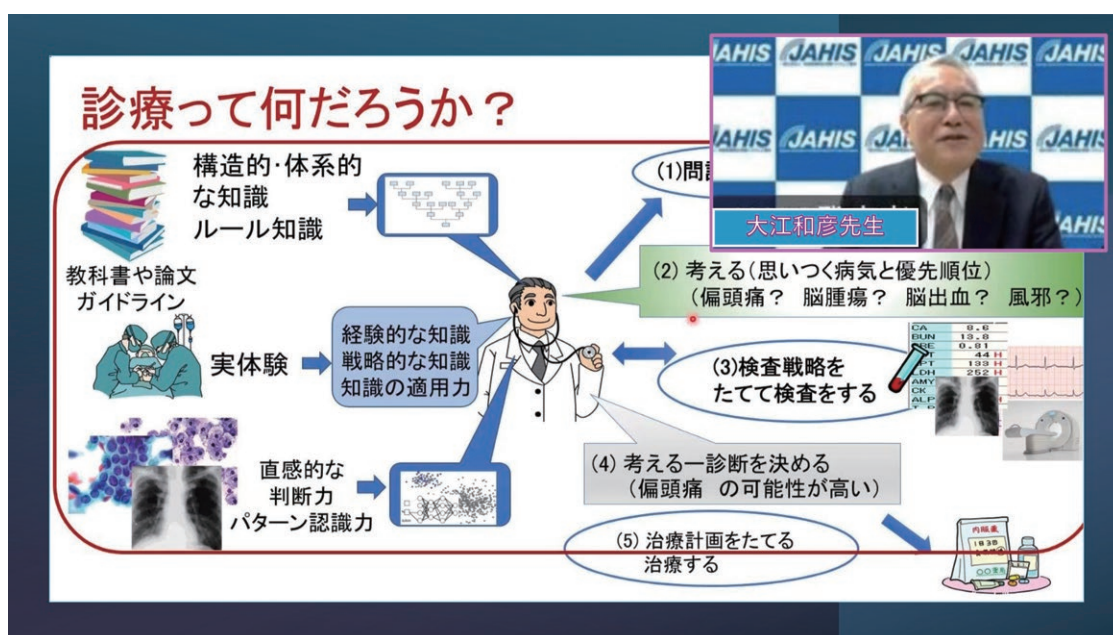
戦略企画部では、令和元年以来、新型コロナなどの影響から開催を自粛しておりました業務報告会を6年ぶりに開催いたしました。

本報告会では、第一部として運営部、戦略企画部の各組織から活動状況と最近のトピックスについての報告が行われました。主な報告内容は以下のとおりです。

また、第二部では特別講演として、順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科 特任教授（元 東京大学大学院医学系研究科 医療情報学分野 教授）の大江和彦先生から、「AIとITを活用する医療の本質とは」と題してご講演をいただきました。

各委員会による報告概況

① 戦略企画部	JAHISの現体制および2024年度の主なイベント活動紹介
② 事業企画推進室	データヘルス集中改革プラン、診療報酬改定DX、行政動向の各トピックス紹介
③ 調査委員会	2024年度医療情報システム導入調査結果、および売上高調査の状況報告
④ 企画委員会	JAHIS2030ビジョン改訂版について
⑤ 保健福祉医療基盤検討委員会	俯瞰表の改版状況について
⑥ コンプライアンス委員会	2023年度規程違反事例と是正状況、および2024年度自己監査結果報告
⑦ 情報システム検討委員会	JAHIS情報システムの改善検討
⑧ 絵本製作タスクフォース	JAHIS絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」の会員および医療機関への展開



特別講演風景（オンライン配信）

標準化推進部会

HIMSS25報告

標準化推進部会 国際標準化委員会 副委員長 **井出 大介** (日本アイ・ビー・エム(株))



1. はじめに

HIMSS (Healthcare Information and Management Systems Society) は、情報技術と管理システムを最大限に活用し、医療の質や安全性、アクセス向上などを目指す、米国の非営利団体です。HIMSS25は、2025年3月3日から3月6日の4日間、ネバダ州ラスベガスのThe Venetian Convention & Expo CenterとCaesars Forumで開催されました。

参加者数25,000人超、出展企業数950社、600を超える教育セッションという世界最大規模のヘルスケアIT学会・展示会です。

JAHISでは例年グローバルの視点から、HIMSS視察を定点観測として実施しています。2020年からのコロナ禍で中断していた視察は2023年4月から再開しました。今年は昨年と同じ5名のメンバーで調査を実施しました。

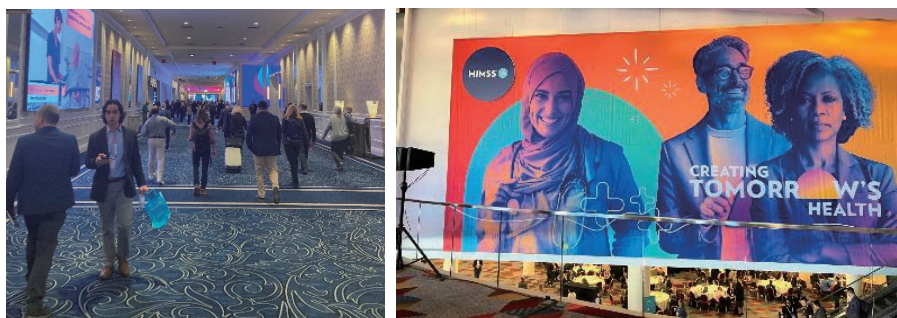


図 HIMSS25の様子

2. 調査概要

2.1. 全体概要

HIMSS25は昨年まで5日間だった開催期間が、今年は1日短くなり4日間となりました。参加登録者は25,000人強で、昨年の26,800人よりも減少、出展社数も昨年より減少しています。

一方で会場は、これまでのラスベガス開催ではVenetianホテル内だけでしたが、今年は2020年10月に開業したCaesars Forumにも会場が拡大されました。

会場内にはカンファレンスが行われる大小様々な会議室の他にも、協賛企業の展示ブースや、「Cybersecurity Command Center」や「Interop and Smart Experience」

「Government Connections Plaza」など、目的やテーマごとに分かれたスペースがありました。



図 HIMSS25の会場

2.2. Preconference

初日には前回同様Preconferenceとして、以下の10のテーマに分かれたフォーラムが開催されました。全てではないもののJAHISメンバーは手分けをして、各フォーラムに参加しています。

- ・ AI in Healthcare Forum
- ・ Interoperability & HIE Forum
- ・ Healthcare Cybersecurity Forum
- ・ Smart Health Transformation Forum
- ・ AMDIS / HIMSS Physicians' Executive Forum
- ・ Health Equity Forum
- ・ Nursing Informatics Forum
- ・ Behavioral Health Forum
- ・ Public Health Data Modernization Forum
- ・ Native American & Indigenous Symposium

私は昨年に続き「AI in Healthcare Forum」へ参加しました。AIのガバナンスやAI導入における戦略やチェーンマネジメントの事例など、幅広いテーマが議論されるとともに、映画「スタートレック」に準えAIと医療従事者が共存していく未来とは?といった、ユニークな内容のセッションもありました。50年前の医療従事者同士の役割分担と現在の役割分担には大きな変化が生じており、その中に自然とAIも参加しつつある、という発言には大変興味深いものがありました。



図 AI in Healthcare Forum の様子

2.3. オープニング基調講演

HIMSS25のオープニング基調講演では「ヘルスケアの未来を形作る：テクノロジーと人間性が共存する協働ケアの旅」と題し、Samsung Medical Center (SMC) のDr. Seung Woo Park氏の発表がありました。SMCはHIMSS成熟度モデルでステージ7を4回取得し、デジタルヘルス指標で満点を獲得している世界的にも先進的な医療機関です。



図 オープニング基調講演の様子

Park氏は、SMCが1994年の設立以来、サムスンの変革精神を医療に導入し、患者を「尊敬されるゲスト」と位置づけ、韓国で初めてCPOE (Computerized Physician Order Entry: 医師向けコンピュータ化オーダーリングシステム)を導入したことなどSMCのこれまでの発展の歴史を説明しました。

その後のPark氏とSMC CIO のMeong Hi Son氏によるパネルディスカッションでは、「DARWIN (Data Analytics and Research Window for Integrated kNowledge)」と呼ばれるSMCにおける医療プラットフォームについて、柔軟な開発アプローチと堅牢性・柔軟性のバランスの重要性や、AIの活用により待ち時間の短縮やMRIスキャン時間の削減が期待できること、また将来的には患者の予後予測や診断、パーソナライズされた支援を行うエージェント的なAIへの発展が期待されていることなどが述べられました。

2.4. 相互運用性

相互運用性の観点では、昨年まではTEFCA (Trusted Exchange Framework and Common Agreement) に関するセッションが複数あったものの、HIMSS25ではかなり減少したという印象があります。

2025年の米国における政権交代の影響を大きく受けているものと考えられますが、その中でもInteroperability & HIE ForumにおけるClosing Keynoteでは「How to Overcome Barriers & Create Breakthroughs by Working Together (どう障壁を乗り越えるか?どうひらめきを得るか?一緒に考えよう)」というタイトルで、「協力」をテーマに現在の変革の時期をどう迎えるかについて、問題提起・解決策を提示するセッションが印象的でした。相互運用性の実現における具体的な効果・実績を紹介するとともに「塞ぎ込んでいてはしょうがない!」というメッセージとともに、より素晴らしい医療の実現に向けて、手元の相互運用性の実現度合いや準備を怠りなく行動に移そうとする前向きな姿勢は、米国ならではの勢いを感じました。

2.5. サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは年々市場規模が拡大しており、米国のサイバーセキュリティ市場の規模は、2032年までに2025年の73.3億ドルから166.73億ドルに成長すると予測されています。一方で「Adversarial AI How Threat Actors Use and Abuse AI Systems」のセッションでは、AIを誤認識させることによるセキュリティ上の脅威や犯罪の可能性について事例が共有されるなど、サイバー攻撃に関する規模・手段は年々複雑化・多様化しつつあります。「Mastering Cyber Threat Intelligence to Protect Patient Safety」のセッションでは、医療業界におけるサイバー攻撃は、患者の健康被害にも直結し得る重要な課題であり、患者の安全を守るには組織的な脅威インテリジェンス (CTI) の実行が必要不可欠であることが取り上げられていました。

2.6 展示会場の様子

HIMSS25の展示会場は、新たにCaesars Forumのエリアも加わり、大きく2つのゾーンに分かれています。多くの企業が出展するVenetian内の会場と、Caesars Forum内に設置された「Cybersecurity Command Center」「Interop and Smart Experience」「Government

Connections Plaza」「Start-Up Park」「Patient Engagement 365」などのテーマに沿った展示会場に分かれ、非常に広大なスペースで企業展示が行われていました。



図 Venetian内の展示会場の様子

Venetian内の会場にはこれまでのHIMSSと同様に、広大な会場内に多数のヘルスケア関連企業による出展がありました。行き交う来場者の数も非常に多く、どのブースも非常に盛況の様子でした。

米国でEMRを展開するEpic社では様々なユースケースにおけるEMR上でのAIの活用事例が紹介されていました。「I'd Never Go Back…」と「AIを活用すると以前のようには戻れない」というポップが非常に印象的でした。

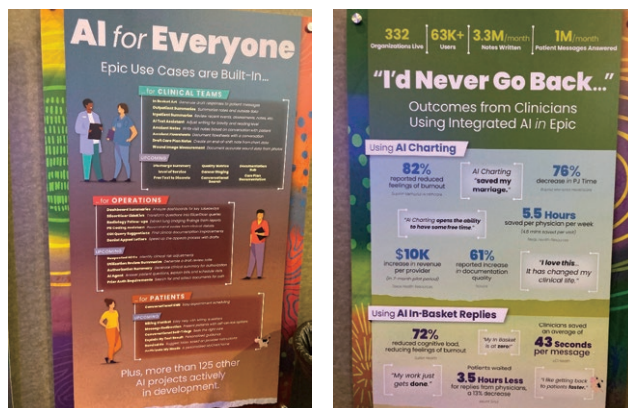


図 Epic社の展示

Interop and Smart Experience のエリアでは主に相互運用性に関するミニセミナーや展示などが行われていました。会場の中には、複数の企業が相互運用性を実機によるデモを行うスペースがあり、PCIM (Point-of-Care Identity Management: ポイントオブケアにおける患者確認) プロファイルを利用して、EMR・アラーム

マネジメントシステム・スマートポンプを連携する展示や、在宅と病院のEMRとを連携する展示などが行われていました。



図 各社間での相互運用性のデモを行う展示

3. おわりに

クロージングの基調講演は、「A Conversation with Simone Biles」のタイトルで、アメリカで長年体操のコーチとして活躍をしたValorie Kondos Field氏がモデレーターとなり、オリンピックの体操競技で多数のメダルを獲得したSimone Biles氏との対談が行われました。

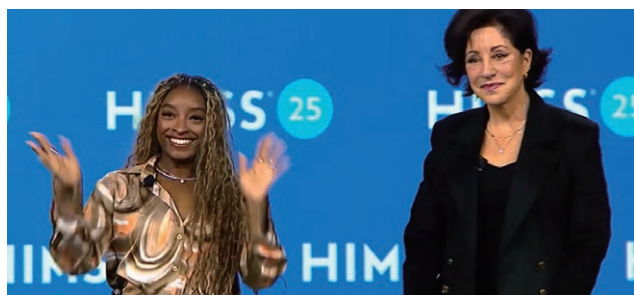


図 Simone Biles氏とValorie Kondos Field氏

Simone氏が大きな大会において活躍する一方で、14~15歳の頃からスポーツ心理学者やセラピストに相談してきた経緯や、東京オリンピック前に一時選手としての活動を中断したこと、セラピーには明確な「完治」がないことへの戸惑いを語り

ました。しかし、パリ大会では試合前のセラピスト面談をルーティンにし、それが幸福感や自信につながったと述べました。

昨今のヘルスケア業界における燃え尽き症候群や高ストレスな状況において、メンタルヘルスやセルフケア、そしてサポートを求めることの重要性を訴えかける、感動的で示唆に富んだ内容でした。

以上、本稿ではページ数の都合で概略しか記載できませんでしたが、より詳細な調査報告を下記JAHIS国際活動のページに掲載していますので是非ご参照ください。

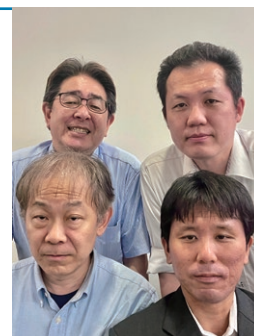
https://www.jahis.jp/sections/id=68?contents_type=27

最後になりましたが、本報告書に協力いただいた、岡田 真一 国際標準化委員会委員長、塩川 康成 委員、雨面 晴好 委員、永瀬 和哉 委員には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

医事コンピュータ部会

マスタ委員会の取り組みについて

医事コンピュータ部会	マスタ委員会	委員長	にかいどう まこと 二階堂 誠	(キヤノンメディカルシステムズ(株))
	副委員長	ごとう ともたか 後藤 知孝		日本事務器(株)
	副委員長	ふるかわ なりみち 古川 成道		(株)NTTデータ
	副委員長	さいとう たつ や 齊藤 達也		ウィーメックス(株)



今回は、診療報酬請求の電子化に必要な「マスタ」を中心にJAHISとして関係機関と連携した活動を行っているマスタ委員会の取り組みについて、以下の4つを紹介します。

1. 診療報酬改定DXへの取り組み（マスタ改善案の提案）
2. JAHIS医薬品マスタの提供
3. 審査支払機関との定例会
4. マスタに関する疑義照会対応

1. 診療報酬改定DXへの取り組み（マスタ改善案の提案）

厚生労働省の「診療報酬改定DX対応方針」の1つに「共通算定マスタ・コードの整備と電子点数表の改善」があり、その中で基本マスタの充足化が掲げられています。

4つのテーマ

○最終ゴールをめざして、医療DX工程表に基づき、令和6年度から段階的に実現

共通算定モジュールの開発・運用

- 診療報酬の算定と患者負担金の計算を実施
- 次の感染症危機等に備えて情報収集できる仕組みも検討

標準様式のアプリ化とデータ連携

- 各種帳票※1の標準様式をアプリ等で提供
※1 医療機関で作成する診療計画書や同意書など。
- 施設基準届出等の電子申請をシステム改修により更に推進

共通算定マスタ・コードの整備と電子点数表の改善

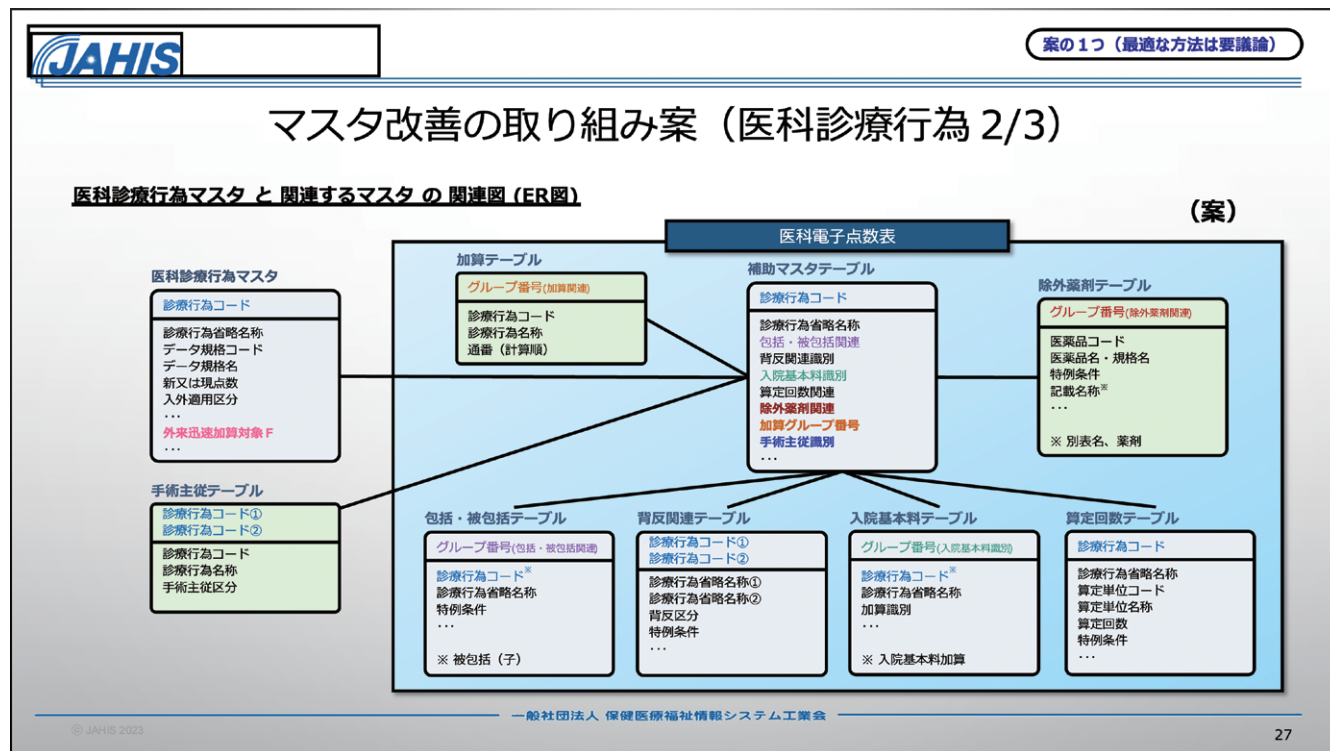
- 基本マスタを充足化し共通算定マスタ・コードを整備
- 地単公費マスタの作成と運用ルールを整備

診療報酬改定施行時期の後ろ倒し等

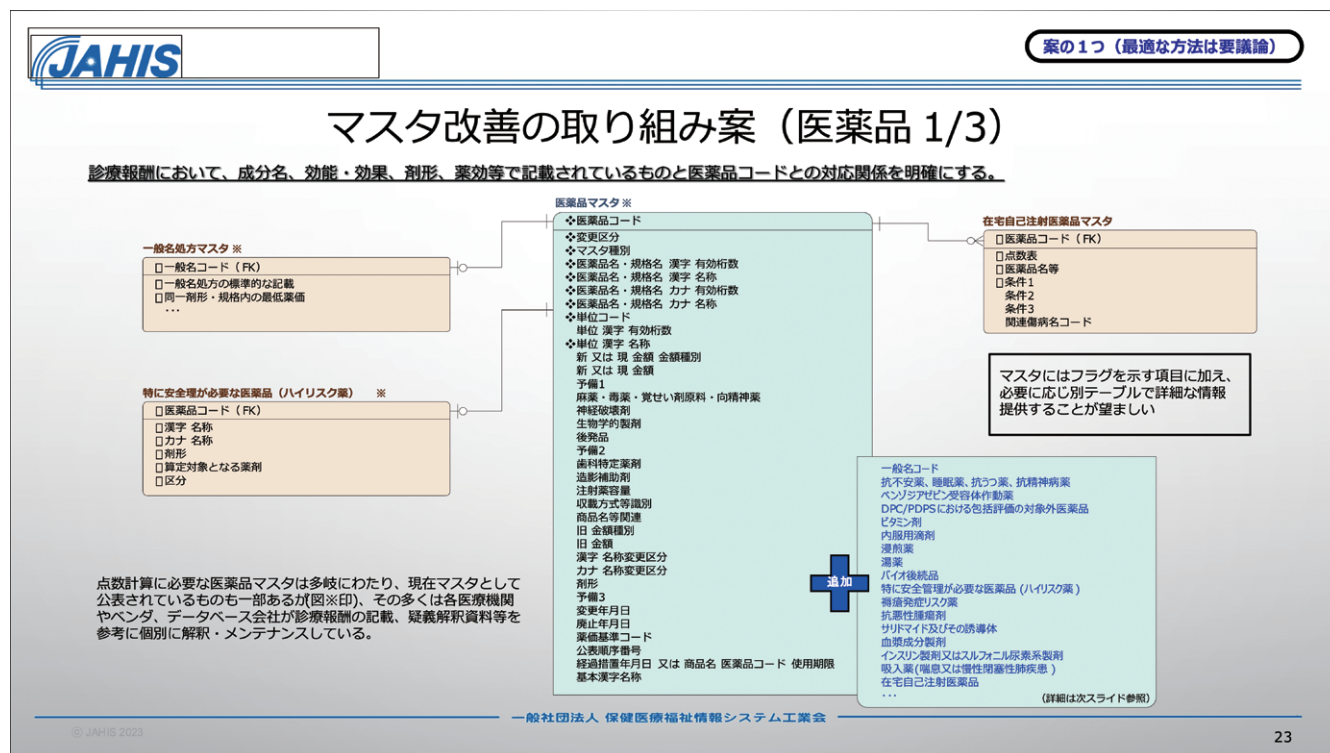
- 診療報酬改定の施行時期を後ろ倒しし、システム改修コストを低減
- 診療報酬点数表のルールの明確化・簡素化

[引用] 厚生労働省「診療報酬改定DX対応方針」(<https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001140175.pdf>) より

本件について、JAHISとしてマスタ・電子点数表に関する知見を基に課題等の洗い出し・整理を行い、各課題に関する改善案の検討、基本マスタや電子点数表の改善案について、厚生労働省へ提起しました。



医科診療行為マスタおよび医科電子点数表の改善案



医薬品マスタの改善案

令和6年度診療報酬改定において、JAHISから厚生労働省に提案した改善案の一部が実施され、医薬品マスタに「薬価基準収載年月日」「一般名処方マスタ」「抗HIV薬区分」が追加される結果となりました。今後もマスタ拡充に向けた推進を行っていきます。

診療報酬改定DXに係る医薬品マスターの拡充

◆診療報酬改定DXに係る基本マスタの拡充については、「診療報酬改定DXタスクフォース」において方針が整理され、結果として医薬品マスターに3項目（5カラム）追加する。

- 薬価基準収載年月日
- 一般名処方マスタ
 - ・一般名コード
 - ・一般名処方の標準的な記載
 - ・一般名処方加算対象区分
- 抗HIV薬区分

[引用] 社会保険診療報酬支払基金「令和6年度診療報酬改定等に伴う各種マスター仕様及び記録条件仕様の変更等に係るメーカー説明会資料」より

2. JAHIS医薬品マスタの提供

JAHIS医事コンピュータ部会では、『医薬品マスタ』『保険者番号辞書』『介護マスタ』を会員様に有償で提供しています。

提供マスタのうち『医薬品マスタ』では、「JAHIS医薬品マスタ」及び「YJコード-レセ電算コード変換テーブル」（以下、変換テーブルとする）の2種類のデータで構成されています。

当該マスタは、(株)医薬情報研究所が設定する個別12桁コード（以下、YJコードとする）をユニークコードとして採用しており、商品名単位でコード化することで医薬品管理に適した構成となっています。

※「基本マスタ」とは「変換テーブル」に収載の「レセ電算コード」にて紐づけが可能。

診療（調剤）報酬改定では、医薬品に係る新たな制度が施行される場合があります。

『医薬品マスタ』では、それらの制度に対して適宜項目の追加等の対応を行っています。

JAHIS医薬品マスタ	YJコード-レセ電算コード変換テーブル
レコード識別	厚労省コード
YJコード	YJコード
...	レセ電算コード
経過措置期限日付	医薬品名称
薬剤区分	一般名称
収載区分	規格単位
薬効分類コード	製造販売承認取得会社
...	コピーフラグ
医薬品名称	後発品フラグ
医薬品名称ヨミ	向精神薬フラグ：抗不安薬
...	向精神薬フラグ：睡眠薬
一般名称	向精神薬フラグ：抗うつ薬
一般名称ヨミ	向精神薬フラグ：抗精神病薬
...	レセ電算コード（選定）
規格単位	医薬品名称（選定）
...	保険外併用療養費の算出に用いる価格（100倍値）
規格名称	長期収載品と後発医薬品の価格差の4分の1（100倍値）
単位数量	
...	
単位名称	
薬価	
製造販売承認取得会社コード	
製造販売承認取得会社名	
毒薬フラグ	
劇薬フラグ	
麻薬フラグ	
...	
向精神薬フラグ	
剤形コード	
...	
医薬品名称ウラ読み	
医薬品名称ウラ読みのヨミ	

：共通項目

図1 JAHIS医薬品マスタと変換テーブルの関係

1) 向精神薬多剤投与の対象フラグ対応

抗不安薬・睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬の適切な投薬を推進する観点から、多剤処方した場合の減算規定が2014年10月より施行されました。

抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬及び抗精神病薬の種類数は一般名で計算する。

また、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬及び抗精神病薬の種類については、**別紙36**を参考にする。

現状「別紙36」では一般名のみが記載されており、「基本マスタ」等でも医薬品コードと紐づけされたデータはありません。^(※)

※診療報酬改定DXにおけるマスタの改善項目としてJAHISよりフラグ設定を提案

『医薬品マスタ』では、「変換テーブル」において一般名別に番号を付加し商品名単位で設定することで、2014年10月の制度施行時より向精神薬多剤投与の計算が可能となるよう対応しています。

番号	項目	データ型	備考
10	向精神薬フラグ ：抗不安薬	数値型	多剤投与の場合、処方箋料の算定に影響があると思われる向精神薬のうち、「抗不安薬」に分類されるものの参考値。 対象の場合は一般名別に100番台の番号（※2）が入る。それ以外は null。
11	向精神薬フラグ ：睡眠薬	数値型	多剤投与の場合、処方箋料の算定に影響があると思われる向精神薬のうち、「睡眠薬」に分類されるものの参考値。 対象の場合は一般名別に200番台の番号（※2）が入る。それ以外は null。
12	向精神薬フラグ ：抗うつ薬	数値型	多剤投与の場合、処方箋料の算定に影響があると思われる向精神薬のうち、「抗うつ薬」に分類されるものの参考値。 対象の場合は一般名別に300番台の番号（※2）が入る。それ以外は null。
13	向精神薬フラグ ：抗精神病薬	数値型	多剤投与の場合、処方箋料の算定に影響があると思われる向精神薬のうち、「抗精神病薬」に分類されるものの参考値。 対象の場合は一般名別に400番台（定型薬）、500番台（非定型薬）の番号（※2）が入る。それ以外は null。

※2 各番号は、指定された一般名毎に一意となるよう付与

図2 変換テーブルにおける向精神薬フラグ仕様（抜粋）

2) 長期収載品の選定療養対応

後発医薬品のある先発医薬品（長期収載品）を患者希望により処方・調剤した場合は、2024年10月より選定療養の対象となりました。

厚生労働省ホームページには、「保険外併用療養費の算出に用いる価格」や「長期収載品と後発医薬品の価格差の4分の1」の情報を含む「対象医薬品リスト」が公開されましたが、「基本マスタ」では、「長期収載品と後発医薬品の価格差の4分の1」のデータはありません。

『医薬品マスタ』では、「変換テーブル」において「長期収載品と後発医薬品の価格差の4分の1」の情報も併せて設定することで、「特別の料金」の算出を容易になるよう対応しています。

番号	項目	データ型	備考
14	レセ電算コード（選定）	文字型 (半角9n' 1t)	「67」で始まるコード（※3）。
15	医薬品名称（選定）	文字型 (全角可変長)	基金マスターの省略漢字名称（選）付に対応（※3）。
16	保険外併用療養費の算出に用いる価格（100倍値）	数値型	厚労省HPに掲載されているリストの価格を100倍したもの／基金マスターの「新又は現金額」ではないので注意（※3）。
17	長期収載品と後発医薬品の価格差の4分の1（100倍値）	数値型	厚労省HPに掲載されているリストの価格差を100倍したもの（※3）。

※3 項番14～17への値の設定は、対象品目のみ。対象で無ければnull

図3 変換テーブルにおける長期収載品対応仕様（抜粋）

3) 各種マスタの申し込みについて

各種マスタの最新の仕様や申し込み方法につきましては、下記を参照ください。

- ・『医薬品マスタ』 https://www.jahis.jp/sections/id=576?contents_type=28
- ・『保険者番号辞書』 https://www.jahis.jp/sections/id=479?contents_type=28
- ・『介護マスタ』 https://www.jahis.jp/sections/id=843?contents_type=28

3. 審査支払機関との定例会

1) 「マスタ定例会」のはじまり

2008年5月、マスタ委員会と社会保険診療報酬支払基金（以下、支払基金とする）との間で、レセプト電算処理システムの各種マスタに関する意見交換の場として定例会が開催されました。この定例会が開催される前にもマスタ委員会と支払基金との間で度々会議を開催していましたが、平成20年度診療報酬改定のタイミングで毎月月末に月例会を開催することとなりました。

2) 現在の活動状況：「マスタ定例会」から「審査支払機関との定例会」へ

当初は、レセプト電算処理システム各種マスタに関する意見交換会として開始した定例会ですが、別途開催していた支払基金との電子レセプト定例会と合同で開催することになりました。現在は、支払基金だけでなく、審査支払機関側として国民健康保険中央会（以下、国保中央会とする）も参加し、歯科や調剤のレセプト電算の義務化や訪問看護のレセプト電算化に向けて、JAHIS医事コンピュータ部会の各委員会の委員長や副委員長が参加して、マスタおよび電子レセプト合同で毎月「審査支払機関との定例会」を開催しています。

また、議題についても、当初の目的から徐々に発展し、現在では厚生労働省との連携も踏まえた内容や、オンライン資格確認や電子処方箋などの医療DX、診療報酬改定DXに関連する幅広い内容について情報共有や意見交換を行っており、各委員会を通じて会員の皆様に情報を提供しています。

3) 「審査支払機関との定例会」略歴（主な出来事）

2008年5月30日の第1回から、昨年の2024年6月12日で第150回の開催となり、直近の2025年7月11日で第162回の開催を迎えることができました。

【略歴（主な出来事）】

2008年5月30日	第1回開催
2018年12月11日	第100回開催
2019年10月10日	第109回開催（国保中央会が参加）
2019年11月12日	第110回開催（電子レセプトと合同開催）
2024年6月12日	第150回開催
2025年7月11日	第162回開催（直近の開催）

今後も、審査支払機関として支払基金本部と国保中央会との定例会を継続し、また関係省庁とも連携して、ヘルスケア業界の発展に貢献できれば幸いです。

4. マスタに関する疑義照会対応

診療報酬改定時期や中医協で期中に承認された診療行為や医薬品、特定器材に関する疑義について、JAHIS内での取り纏め、関係機関への照会を随時対応しています。照会後の回答については、メーリングリストにて会員様へ迅速に展開するようにしています。メールでの疑義照会のみでは解決出来ないような大きな課題がある場合は、医療機関での運用も踏まえ、審査支払機関と打合せを行い、医療機関や審査支払機関、レセコンベンダで混乱が生じないようなマスタを構築するように取り組んでいます。

現在、マスタ委員会で対応しているマスタは下記となります。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1) 医科／歯科診療行為マスタ | 5) 電子点数表／コメント関連テーブル |
| 2) 医薬品マスタ（一般名処方マスタ含む） | 6) 傷病名マスタ／修飾語マスタ |
| 3) 特定器材マスタ | 7) 労災レセプト電算マスタ |
| 4) コメントマスタ | |

診療報酬改定時期は疑義の件数が多く、会員様のシステム対応にも影響するため、早急な対応が必要となります。回答を早期にいただけるよう、抱えている課題について審査支払機関への説明や対応案の提案等を行っています。問合せ内容によっては、事務局を通して厚生労働省への問合せを行うこともあります。令和6年度診療報酬改定に伴う疑義の件数は下記となります。

No.	マスター名	2024年											2025年						合計
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
1	医科診療行為マスター	7	20	8	7	3				2		1					4	52	
2	歯科診療行為マスター	2	20	15				3		1								41	
3	医薬品マスター（一般名処方マスタ含む） 特定器材マスター							4				1		5				10	
4	コメントマスター コメント関連テーブル		14	17	3	1	4		2									41	
5	電子点数表		6	16	1	2	3		3	2	7	2		1			1	44	
6	労災レセプト電算マスター																	0	
	月間計	9	60	56	11	6	7	7	5	5	7	4	0	6	0	0	5	188	

図4 令和6年度の疑義件数

診療報酬改定の施行日直前（2024年は6月施行）まで疑義の照会が集中しているのが分かります。今後も関係機関と連携しマスタに関する疑義照会の対応を行っていきます。

マスタ委員会は、保健医療福祉情報システム産業の健全な発展と国民の保健・医療・福祉に寄与し、健康で豊かな国民生活の維持向上に貢献できるよう、時代とともに少しずつ変化しながら、今後も継続して活動してまいります。また、今日を迎えられたのは、これまで多くの方々のご支援・ご協力があったからこそだと感じております。この場をお借りして心より感謝いたします。 今後とも、皆様のより一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

医療システム部会

JAHIS臨床検査データ交換規約 Ver.5.0Cの紹介とその後

部門システム委員会 臨床検査システム専門委員会
臨床検査データ交換規約改定WG リーダ

ちば のぶゆき
千葉 信行 (株)エイアンドティー



2024年7月に制定された「JAHIS臨床検査データ交換規約 Ver.5.0C」は、臨床検査業務における情報交換の標準化を目的として改定されたものであり、従来の規約を踏まえつつ、

現場のニーズや技術的進展に対応する内容となっています。本稿では、改定の背景と主な内容、関連する取り組み、そして今後の展望についてご紹介いたします。

1. 改定の背景と目的

臨床検査は、診断・治療方針の決定において重要な役割を果たす医療行為であり、その情報交換の正確性と効率性は医療の質と安全性に直結します。JAHISではこれまで、検査オーダーや結果報告に関するメッセージ仕様を整備し、医療機関の部門間、医療機関と検査センター間等の連携を支援してきました。

しかし、医療情報技術の進展や国際標準との整合性の必要性が高まる中、従来の規約では対応が難しい場面も見られるようになってきました。特に、検査室内での分析機との連携や、検査業務の自動化・効率化に関する要望

が増えており、より実務に即した規約への改定が求められていました。

Ver.5.0Cでは、これらの課題に対応すべく、検査業務の流れ全体を見直し、従来のオーダーエントリーから結果報告までの範囲に加え、検査室内の分析機との通信も標準化の対象とすることで、より包括的な規約となるよう設計されました。

以下に、臨床検査依頼・報告に関するシステム間の情報伝達の流れを示します。各参照番号は規約内の該当セクションを指しています。

2. 主な改定内容

今回の改定では、IHE (Integrating the Healthcare Enterprise) のPaLM (Pathology and Laboratory Medicine) ドメインで策定されたLAW (Laboratory Analytical Workflow) プロファイルのメッセージ仕様を新たに取り入れました。LAWプロファイルは、分析機との通信に特化した仕様であり、検査指示・結果取得の自動化を支援するものです。これにより、検査室内の機器連携が標準化され、検査業務の効率化と精度向上が期待されます。

LAWプロファイルはヨーロッパと北米の主な体外診断装置のベンダーが参加しているIICC (The IVD Industry Connectivity Consortium) というコンソーシアムが

IHE PaLMに参加し、従来からあったLDA (Laboratory Device Automation) プロファイルを分析機に特化させ、より実用的な規約に改良したものです。

試薬の在庫管理や自動再検等の現実のユースケースをうまく記述するために、一部にHL7 Ver.2.81、Ver.2.9のセグメント・データ型を採用しているため、基本的にVer2.5で記述するJAHISデータ交換規約にどう反映させるかは苦慮しました。

LAWプロファイルは策定後、米国CLSI (Clinical and Laboratory Standards Institute) のAUTO16 (Next-Generation In Vitro Diagnostic Instrument Interface) 規格として米国標準になっています。

IICCの構成ベンダーの分析機器の開発・製造は日本で
行っているベンダーも多いので、日本のベンダーからもこの
ような戦略的な動きがあってもいいのではと考えています。

また今回、他のデータ交換規約に合わせて「JAHIS標

準適合性宣言書」の雛形（テンプレート）を策定しまし
た。データ交換規約に対してどのトランザクションが実装で
きているか／するべきかの判断、あるいはユーザーへのア
ピールの助けになれば幸いです。

3. WG活動の様子

Ver.5.0Cの策定は、臨床検査データ交換規約改定
WGのメンバーによる継続的な議論と検討の積み重ねに
よって実現されました。WGでは現場の運用実態や課題を
共有しながら、技術的な整合性と実務的な有用性の両立
を目指して検討を進めました。

特にLAWプロファイルの導入にあたっては、分析機ベ
ンダーメンバーとの意見交換や、既存規約との整合性の
確認など、慎重な調整が必要でした。WGメンバーの専
門性と協力体制により、現場での実装可能性を意識した
設計が可能となりました。

4. 関連する取り組みとの連携

本規約の前版であるVer.4.0は、「JAHIS臨床検査
データ交換規約を用いた外注検査連携のための実装ガイ
ド Ver.1.0」の参照規約として活用されました。この実装
ガイドは、厚生労働省が推進する「標準型電子カルテα
版」における委託検査部分の連携仕様として採用されてお
り、JAHIS規約が公的な医療情報整備にも一定の役割を
果たしていることがうかがえます。また「外注検査データ
交換ガイド作成WG」のメンバーがデジタル庁の「標準
型電子カルテα版プロダクトWG」の会合にも参加させて

いただき、Ver.5.0Cに基づいて提言をさせていただいて
おります。

また、Ver.5.0Cは日本医療情報学会NeXEHRs課題研
究会においても取り上げられ、JP CoreのServiceRequest
リソース検討の参考資料として活用されました。これは、
FHIRベースの医療情報交換における国内標準の整備に
向けた議論の一助となったものであり、JAHIS規約が日本
におけるFHIR実装に対して一定の価値を持ち始めている
ことを示しています。

5. 今後の展望

Ver.5.0Cの策定は、標準化の一つの節目ではありますが、
規約は策定して終わりではなく、実装と運用を通じて
初めてその価値が発揮されます。今後は、現場からの
フィードバックを踏まえた改善や、関連団体との連携を通じ
た普及活動を進めていく予定です。

特に、LAWプロファイルの導入には分析機ベンダーと
の協働が不可欠であり、JAHISとしてもベンダーとの連携
を強化していく必要があります。また、FHIRとの整合性を
意識した規約の進化も、今後の重要な課題となるでしょう。

相互運用性委員会のメッセージ交換専門委員会からは
「臨床検査データ交換規約FHIR版を作ったら」というコ
メントもいただいております。

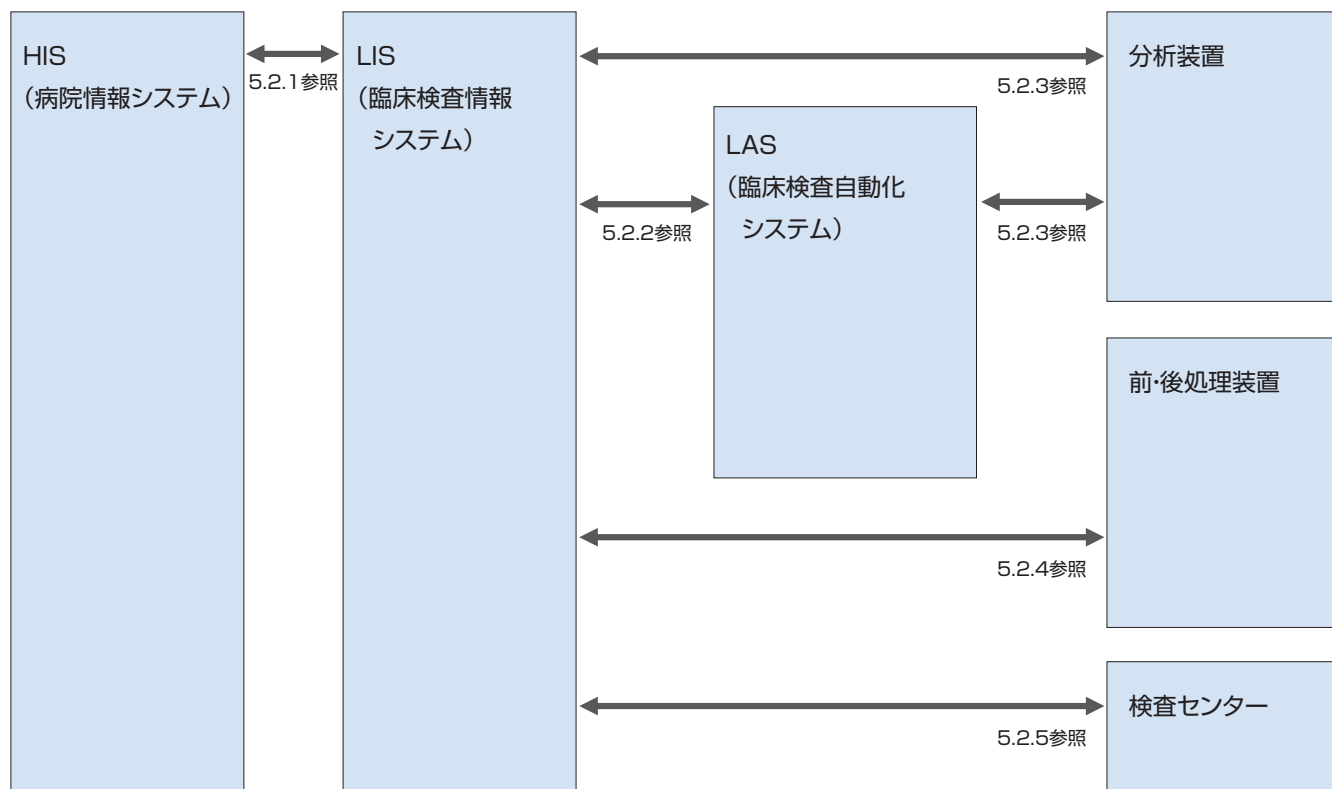
さらに、教育・啓発活動の充実も求められています。規
約の内容を理解し、適切に活用できる人材の育成は、標
準化の定着に不可欠です。セミナーやワークショップなど
を通じて、規約の意義と使い方を広く伝えていく取り組みも
進めていきたいと考えています。

6. おわりに

JAHIS臨床検査データ交換規約 Ver.5.0Cは、臨床検査業務の標準化に向けた一つのステップです。策定にあたっては、多くのWGメンバーの専門性と熱意が結集されました。今後も、医療情報の質の向上と連携の円滑化

に寄与できるよう、地道な取り組みを続けてまいります。

より良い医療情報環境の構築に向けて、引き続き皆様とともに取り組んでまいりたいと存じます。



システム間情報伝達イメージ（臨床検査依頼・報告関連システム間情報伝達）

保健福祉システム部会

PHR基本的指針の改定について

健康支援システム委員会 副委員長 かづま ひろゆき 鹿妻 洋之 (オムロンヘルスケア(株))



1. はじめに

厚生労働省、経済産業省、総務省の連名で公表されている「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」（以下、基本的指針）は、2021年の策定から3年が経過し、社会的・技術的な変化を踏まえた見直しが求められていました。

特に、マイナポータルAPI連携審査の運用との整合性や、クラウド環境でのサービス提供を前提としたセキュリティ対策の強化が重要な課題として認識されていました。

令和6年11月より「健康・医療・介護情報利活用検討

会 健診等情報利活用ワーキンググループ（WG）民間利活用作業班」が再開され、検討が進められてきました。

本作業班の委員としては、前回までは小職が、今回より井上委員長が参加しています。この度パブコメを経て令和7年4月30日に改定版が公開となりました。今回の改定に伴い、名称も「PHR サービス提供者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」に変更されています。

本稿では、PHR基本的指針の位置づけを確認するとともに改定に至る議論過程や改定のポイントについて解説します。

2. 基本的指針と関連資料の位置づけ

理解すべきことのポイントを図1に示します。

■ 基本的指針

- 最低限遵守してほしい内容を提示（強制力無し）
- 改定には「民間利活用作業班」での議論が必須。

基本的指針（共通部分）

マイナポータル接続時要求事項

医療機関連携時要求事項

自治体連携時要求事項

■ 基本的指針に関するQ&A

- 基本的指針には書ききれない細部に近い内容や解釈についての説明を提示
- 改定には「民間利活用作業班」の開催が必須とされない。

Q&A
(指針解釈補助資料)

■ 本指針に係るチェックシート

- 基本的指針に記載された内容を表形式で再整理
- PHRサービス提供者が作成し、必要に応じて外部提示することを想定。

チェックリスト
(自己確認・外部提示資料)

図1 基本的指針関連資料について（出典：PHRサービス事業協会）

一番注意すべき点は、この基本的指針は実装が強制されている訳ではないことです。

現在、この基本的指針を参考とした各団体のガイドラインが作成されていることもあり、これらの団体が認証事業を行なう場合、実装が事実上義務化される可能性も残りますが、法的には何の強制力も持たず、ペナルティ類の規定も見当たりません。多様なPHRサービスの事業化や利用促進を期待する視点では、有益なものと言えます。

基本的指針Q&Aは、基本的指針本編に記載困難な事

項、解釈の変更が想定され硬直した解釈を避けるべきことを説明するための資料であり、今後疑義解釈にともなう追記も行なわれる可能性があります。ただし、これも行政資料であることから、必要以上の細部に踏み込むことは行なわれないため、関連団体で補足資料の整備が期待される場所です。

チェックシートは、記載内容を自己チェックするための帳票です。外部から基本的指針の準拠性に対する質問があった時にも、積極的な自己情報開示にも活用出来ると考えます。

3. 議論過程

今回の改定を議論する民間利活用作業班は、以下に示すように2024年11月より3回にわたって開催されました。

回数	14	15	16
開催日	2024年11月28日 (令和6年11月28日)	2024年12月23日 (令和6年12月23日)	2025年2月3日 (令和7年2月3日)
議題等	(1)「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」の改定について	(1) 第14回民間利活用作業班での検討課題に対する主なご意見について (2) 「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」の改定案について (3) 「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針に関するQ&A」の改定案について	(1) 第15回民間利活用作業班での検討課題に対する主なご意見について (2) 「PHRサービス提供者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」及び「PHRサービス提供者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針に関するQ&A」の改定案について (3) 「PHRサービス提供者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針に係るチェックシート」の改定案について
議事録／議事要旨	議事概要 https://www.mhlw.go.jp/content/001386479.pdf	議事概要 https://www.mhlw.go.jp/content/001480393.pdf	議事概要 https://www.mhlw.go.jp/content/001480394.pdf
資料等	資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_46172.html	資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_47717.html	資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_50451.html

第14回で論点整理、第15回で論点に対する対応案の提示と議論、第16回で最終案の提示と議論、合意となります。回数が限られる以上、初回の論点整理において採用されないと改定対象となり得ないため開催前の事前調整においても種々の議論が行なわれました。

この中で特に問題となったのは、①対象事業者の拡大、②医療機関への「データ提供」についての明確化、③データインポート機能の取扱いの3点です。

それぞれの背景を記載すると、

- ①民間事業者以外が提供するPHRを対象外とした場合、品質等を担保するガイダンスが無いことへの懸念
- ②提供形態の説明が無く「個人情報保護法上の提供」(提示) も含まれるとすると対応範囲が拡大しすぎることへの懸念
- ③現状ニーズが多いとは言えないインポート機能実装を強制することによる事業者負荷(サービスデザインの柔軟性含む)への配慮となります。

4. 改定のポイント

情報セキュリティ関係で強化された部分もありますが、多くは他のガイドライン類の改定に合わせるものであり、各社にて十分対応可能な内容となっています。一点だけ特記するとすれば、「無害化処理」と限定的に記載されていた部分が、ウイルススキャンやAIによるファイルチェックなど柔軟な技術選択を認めることに変更となりました。

本節では、前述の論点に関わる部分について補足します。

①対象事業者の拡大

「健診等情報」の定義を明確化し、医療機関に提供される可能性のある情報も含める方向で検討されています。さらに、個人が記録・測定したライフログや学校健診（例：心電図）なども対象に含める案が示されました。

新しい名称に含まれる「PHRサービス提供者」は、従来の民間PHR事業者に加え、自治体、健康保険組合、医療機関、さらにはBtoBtoCモデルのような間接的な提供者も含めたものとなりました。ただし、「直接的・間接的に提供する者」という定義が広範であるため、図解やQ&Aによる補足が必要とされています。

②医療機関への「データ提供」についての明確化

基本的指針Q&AのQ1-15に具体的な記載が存在します。これにより、外部アクセスを伴う電子的なシステム連携、電子的なファイル提供等を除き、画面提示、印刷しての提供は対象外となっています。但し、お薬手帳のQRコードのようなものが検査項目に拡がった場合に、解釈が変更される可能性も残りますので、注視する必要があります。

Q1-15 本指針が対象として想定する「健診等情報」の定義のうち、「個人が自ら測定又は記録を行うものであって、医療機関等に提供する可能性がある情報」には、医療機関等にアプリ・サービス等によって電子的に提供する以外に、医師等に対して直接アプリ等の画面を提示する場合も含まれますか。

A 電子的に提供する以外に、医療機関等で直接アプリ等の画面を提示のみ行う場合は、対象の情報に含まれま

せん。また、直接アプリ等の画面によって提示された情報が、医療機関等の PHR サービスではないシステム等に入力され、電子データとなった場合についても、本指針の対象の情報に含まれません。

③データインポート機能の取扱

PHRデータを生涯にわたって保持・活用するためには、エクスポート機能の充実が不可欠であり、これは事業者が保証すべき機能とされています。一方、インポート機能は他サービスとの差別化要素として、事業者の判断に委ねる方針です。

本事項に関連する記載は、基本的指針本編4. 2 (1) ①にあります。

① 利用者を介した相互運用性の確保

健診等情報を取り扱う PHR サービス提供者においては、利用者を介したデータの相互運用性確保の観点から、利用者へのエクスポート機能及び利用者からのインポート機能を具備することが望ましい。少なくともマイナポータル API 等を活用して入手可能な自身の健康診断等の情報については、利用者へのエクスポート機能を具備しなければならない。

その際、健診等情報のフォーマット等に関しては、マイナポータル API から出力される項目及びフォーマットを基本とし、また、データ変換時は互換性を担保するような方式とすることで、利用者が容易にデータを取り扱うことができるよう努めなければならない。

わかりにくいですが、インポート機能については、「望ましい」に表記が変更されています。事業者ヒアリングにおいて、利用頻度の低い機能の実装義務化は問題との意見が合った旨の説明がありました。

5. まとめ

残課題として、「各社が提供するPHRサービスが基本的指針の対象となっているかどうか分かりづらい」「特にサービス提供主体とシステム事業者の契約形態によって様々な解釈が生まれる懸念がある」、「PHRサービスの類型が十分に提示されていない」等が指摘されていますが、関連団体での今後の取り組みやそれを受けたQ&A等の

変更に期待したいと考えます。

JAHISも作業班への委員派遣団体として議論を深める必要がありますので、関心をお持ちの企業におかれましては、委員会への参加や事務局へのご相談等を検討頂ければ幸いです。

2024年度表彰受賞者の紹介



2025年6月10日 第15期定時社員総会での記念撮影（経団連会館）

2024年度に各種委員会やプロジェクト等の活動において、次頁以降の皆様が受賞されました。それぞれの受賞理由と受賞者コメントを掲載いたします。なお、受賞者の役職は2025年6月30日時点のものです。

部門	奨励賞 (個人)	奨励賞 (連名)	功績賞 (個人)	功績賞 (連名)	功績賞 (グループ)	合計
戦略企画部	1		1		1 (16)	18
医事コンピュータ部会	1		4			5
医療システム部会			4	1 (3)		7
標準化推進部会		1 (3)	1			4
保健福祉システム部会						
事業推進部				1 (3)		3
総務会	1					1
合計	3名	3名	10名	6名	16名	38名

奨励賞 戦略企画部	企画委員会 委員 (富士通Japan(株)) もりもと たくと 守本 拓人 
医療情報システム入門コーステキスト作成新手法 導入と精度向上	

受賞理由：

医療情報システム入門コースのテキスト見直し（第1単元、第2単元）において、テキストデータからのAI音声データ作成ソフトを活用し、各ページの音声での解説を実現し、今後の資料更新時の負荷を大幅に軽減できる環境を構築した。

AI音声データ作成ソフトは、イントネーションや話すときの速さなどの編集が重要であり、更に事前に指定されている講義時間内に説明が収まるよう文章表現などの調整を根気よく行う必要があるが、一連の作業をチームリーダとして牽引した。

今回の成果として、録音時の状況や音声の大きさ、声色の違いによる聞き手の違和感も軽減でき、またページ毎に講師を変えることもできるため、来年度以降は解説内容の変更に合わせて音声ファイルの差し替えのみで対応が可能となる。

守本拓人さんのコメント：

この度は、2025年定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

本取り組みは、テキストデータからAI音声データを生成し、資料更新の負荷軽減に貢献することを目的としておりました。

毎年少しずつ委員も変わっていく中で、講師担当が変わっても、AI音声データ作成ソフトによる解説を可能にし、音声ファイルの差し替えのみで対応できるようになったことは大きな成果です。イントネーションや話速の調整、文章表現の工夫など、多くの課題がありましたが、チーム一丸となって乗り越えることができました。

この受賞を励みに、今後も医療情報の発展に貢献できるよう、より一層精進してまいります。ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

奨励賞 医事コンピュータ部会	歯科システム委員会 歯科改正分科会 副委員長 (株)モリタ こもり かずひで 小森 一秀 
令和6年度診療報酬改定及び 歯科標準化活動への貢献	

受賞理由：

1. MEDIS「歯科分野の標準化委員会」に参加され、歯科標準病名マスタのメンテナンス、標準歯式コード仕様の改定に向けた検討に参画、歯科診療所向けシステムベンダ唯一の委員として意見を発信し、委員会においても随時状況報告を会員に行っている。また、歯式表現におけるHL7 FHIR対応に関する検討にも今後参画し、委員会においても随時状況報告を会員に行う。
2. 令和6年度診療報酬改定において、歯科分野で発生する各種疑義のとりまとめ及び関係機関への疑義照会を中心として行い、会員のスムーズな診療報酬改定作業の実施に大きく貢献した。また、令和6年度診療報酬改定施行後の長期収載品の選定療養の施行や令和7年4月の中間年改定においても対応を行い、委員会において要点を整理した報告を実施した。

奨励賞 総務会	
女性活躍セミナー パンフレット刷新	女性活躍タスクフォース 委員 (株)TMJ ひろた ゆき 廣田 有貴 

受賞理由：

- 2023年度、2024年度の女性活躍セミナーにおいて、セミナーのパンフレット作成を担当し、各メンバーの意見を取り入れながら、自社のデザイン専門家にも協力を仰ぎ、従来のデザインを刷新した。色や文字のサイズなどユニバーサルデザインを採用したパンフレットは、多くの会員や参加者から大好評で、セミナー勧誘に大きく貢献した。
- グループ交流会においても、参加者の自由なディスカッションに積極的に加わり、参加者の悩みに共感し、質問にも真剣に応え、JAHISでの活動の有効性のPRに大いに貢献した。

廣田有貴さんのコメント：

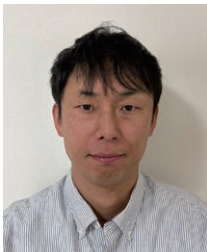
この度は、定時社員総会におきまして奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

日頃よりご指導いただいております委員会の皆様、ならびに選考に関わられた皆様に、心より御礼申し上げます。

弊社はセコムグループの一員として、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービスを通じて、医療分野をはじめ様々な分野で業務効率化や品質向上の支援を行っております。

女性活躍TFでは、医療業界内の多様性推進に向けた取り組みの一環として、セミナー運営にも携わらせていただいております。活動を通じて、業界の課題や可能性について多くの学びを得ることができました。

今後も、業界の発展に微力ながら貢献できるよう、委員会活動を継続してまいります。引き続きご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

奨励賞（連名） 標準化推進部会	
国際エキスパートとしてHIMSS参加による JAHIS国際活動拡大への貢献	国際標準化委員会 委員 セコム(株) あまづら はるよし 雨面 晴好 
国際標準化委員会 委員 日本光電工業(株) ながせ かずや 永瀬 和哉 	国際標準化委員会 委員 日本光電工業(株) たかお ともみ 高尾 友美 

受賞理由（雨面晴好さん、永瀬和哉さん）：

2024年3月に国際エキスパート就任後初となるHIMSS24（米国 オーランド）に現地参加し、JAHISの国際活動拡大に貢献した。現地にて、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、HIMSS24調査報告書（作成期間：2024年4月～7月）の執筆を担当した。報告書は国際標準化委員会での発表後、JAHISホームページ*でも公開されている。（*JAHISホームページトップ＞部会情報＞標準化推進部会＞国際活動）

表彰受賞者紹介

2025年3月にはHIMSS25（米国 ラスベガス）にも現地参加し、調査報告書を執筆中である（HIMSS25調査報告書は2025年8月に公開予定）。

また、HIMSS開催地にて、産・学・官とのネットワーキング強化を行い、JAHISのプレゼンス向上にも貢献している。

雨面晴好さんのコメント：

このたびは奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

HIMSS24およびHIMSS25に国際標準化委員HIMSS担当として参加し、最新動向を視察する貴重な機会を得ました。各国の先進的な取り組みに触れ、多くの学びと刺激を受けました。

今後は得られた知見を国内医療の標準化推進に活かし、グローバルな視点で医療ITの発展に貢献してまいります。

永瀬和哉さんのコメント：

この度、奨励賞を受賞することができ、大変光栄に思います。

私はこれまで、北米のHIMSS24とHIMSS25に参加し、バーチャルケアやサイバーセキュリティを中心に米国の医療トレンドを調査してきました。現地での調査を通じて、米国の医療がデータをどれほど活用しているかに非常に驚かされました。

また、今後はAPACでの調査の機会もいただけることになり、これを大いに活かしていきたいと考えています。北米での学びをもとに、APAC地域特有の課題や可能性を探求し、さらなる知見を得ることを目指します。

私自身の経験としても、医療の現場でデータを活用することで、より良いソリューションを提供するために模索し続けたいと思います。

最後になりますが、JAHISの皆様にご心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

受賞理由（高尾友美さん）：

2024年5月に国際エキスパート就任後初となるHIMSS EU24（イタリア ローマ）に現地参加し、JAHISの国際活動拡大に貢献した。現地にて、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、報告書を作成した。

報告書は国際標準化委員会での発表後、JAHIS会員向けアーカイブ※にも掲載されている。

（※JAHIS会員ページ>ファイル>アーカイブ>JAHISアーカイブ>海外報告書>2024_HIMSS_EU）

功績賞 戦略企画部 絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」制作	絵本製作タスクフォース サブリーダー 日本事務器㈱ つじ まさみ 辻 雅美 
---	---

受賞理由：

JAHIS 創立30周年事業として企画された、絵本タスクフォースにおいて、サブリーダーとして絵本制作を牽引し、“絵本制作”というJAHISで先例のないプロジェクトに挑み、スケジュール通り絵本を完成させた。

「データ循環型社会」というキーワードのみを頼りに作業を開始し、タスクフォースメンバー間の意見調整、出版社との折衝、作家とのコミュニケーションなど、同時並行的に発生する複数事柄に対して、誠実に対応しプロジェクトを完遂した。絵本制作は“JAHIS活動を国民に対して普及させる”という新たな試みに対して、一つの手法を示すものとなった。

辻雅美さんのコメント：

この度は、第15期定時社員総会にて、「功績賞」をいただき、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、ひとえに絵本製作タスクフォースのメンバー全員で力を合わせた結果であり、心より感謝申し上げます。

私たちが手掛けた絵本は、JAHIS創立30周年記念事業の一つとして、JAHISが掲げる「データ循環型社会」の理念をより多くの方々に知っていただくことを目的に制作しました。メンバー全員が絵本制作は初めての経験でしたが、絵本専門業者の皆様にも多大なるご協力を賜り、予定通り完成させることができました。

この一冊には、メンバーそれぞれの経験とこだわりが詰まっています。特に、絵本のキャラクターである「メディたん」は、私たちにとって非常に愛着のある存在となりました。

完成した絵本は、医療機関の皆様から「絵本をもらってとても嬉しい」といった温かいお声を多数いただいております。また、この絵本を医療機関へお届けするにあたり、本当に多くの方々にご支援とご協力をいただきましたこと、深く感謝しております。

JAHIS会員の皆様には、この絵本がより多くの方々の手にとられ、「データ循環型社会」やJAHISの活動について、広く知っていただけるよう、医療機関への配布にご協力いただけますと幸いです。

このような意義深い事業に携われたことを大変光栄に思います。今後もJAHISの発展の一助となれるよう、尽力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会

JAHIS技術文書制定への貢献及び
専門委員就任による活動貢献

調剤システム委員会 副委員長
ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)

なか こ とよあき
中湖 豊明



受賞理由：

1. 調剤標準化分科会サブリーダーとして、以下の技術文書策定に寄与した。

- ① 「JAHIS院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.9（2024年6月制定）」
- ② 「JAHIS院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.10（2024年9月制定）」
- ③ 「JAHIS電子版お薬手帳データフォーマット仕様書 Ver.2.6（2024年9月制定）」
- ④ 「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1（2024年10月制定）」

特に③においては、厚生労働省から電子版お薬手帳ガイドラインが示されている中、技術文書での規定に対する改版仕様の取りまとめを行った。また、④においては、2023年度に策定したVer.1.0に対し、電子処方箋運用において、レセプトコンピュータがオンライン資格確認端末から取得する「電子処方箋関連ファイル」および「オンライン資格確認関連ファイル」を電子薬歴システムへ連携する為の方法を追加するため、厚生労働省など他団体との意見交換会を実施する等、関係者との調整に苦心しながら作業を進めた。本技術文書は、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダーが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

2. 調剤システム委員会副委員長、調剤標準化分科会サブリーダーとして活動している中、日本医療情報学会で「用法課題検討WG」が立ち上がり、WGの一員として参画。日本薬剤師会および日本病院薬剤師会が制定した標準用法用語集のJAMI 用法と電子処方箋用法の精査、各ケースによる対応のガイド作成や課題への対応を進めていく事に積極的に参加し、調剤システムの立場から意見具申した。

中湖豊明さんのコメント：

この度は表彰を賜り、誠にありがとうございます。今回の受賞は、関係者の皆様の多大なるご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

JAHIS技術文書の改訂では、令和6年度診療報酬改定による更新、電子処方箋の普及に対応する形で複数の文書を更新いたしました。「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1（2024年10月制定）」では、レセコンから電子薬歴への連携仕様を策定しました。これにより、電子処方箋の活用促進や薬局内システムの連携強化に、少しでも貢献できれば幸いです。

また、日本医療情報学会の用法課題検討ワーキンググループでは、JAMI標準用法規格と電子処方箋用法が混在する現状に対応すべく、ケース別のガイド作成や課題解決に取り組んでまいりました。これらの成果は、日本医療情報学会より厚生労働省に意見書等として提出され、2025年7月1日改訂の「電子処方箋管理サービスの処方箋情報等を記録するための用法マスタ」に反映されております。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、日本の医療に貢献できるよう、皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

功績賞 医事コンピュータ部会	調剤システム委員会 調剤標準化分科会 サブリーダー 東日本メディコム(株)	
調剤システム委員会初の日本薬剤師会専門委員会 委員就任による活動貢献及び JAHIS技術文書 制定への貢献		の も と た だ し 野本 禎

受賞理由：

1. 日本薬剤師会に設置されている「薬局システム委員会」への委員委嘱を受け、定期開催される会議に出席している。日本薬剤師会に設置されている委員会への委員委嘱は、JAHIS調剤システム委員会初の事例であり、委員会の場で、電子処方箋におけるダミーコードや単位変換に対する問題に対し、電子処方箋管理サービス記録条件仕様の変更に対する情報提供を行った。当件に対する厚生労働省から日本薬剤師へ記録条件仕様の変更案内がない中、JAHISから情報提供を行う等、医療DX施策に関するシステムベンダとしての意見具申や、関係機関から入手した情報を展開する事により、JAHISのプレゼンス向上に大きく貢献している。
2. 調剤標準化分科会サブリーダーとして、守屋分科会リーダー、中湖サブリーダーと共に4種の技術文書策定に寄与した。特に「JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.1（2024年10月制定）」においては、電子処方箋運用において、レセプトコンピュータ/電子薬歴間のデータ連携方法を標準化することで、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダーが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

野本禎さんのコメント：

このたびは、功績賞という栄えある表彰を賜り、誠に光栄に存じます。

今回の受賞は、調剤システム委員会として初めて日本薬剤師会専門委員会の委員に就任し、同会での活動を通じた貢献ならびに、JAHIS技術文書の制定への寄与を評価いただいたものと伺っております。

思い返せば、JAHIS活動に関わるきっかけは、長野県上田市の薬局に勤務されている薬剤師の先生から、「君は電子薬歴については詳しいが、調剤報酬については理解が足りないね」とご指摘を受けたことでした。それを機に、調剤報酬の仕組み

を学び始め、以来20年以上にわたり、調剤システム委員会の活動に参加させていただいております。

JAHIS技術文書の策定にあたっては、薬局内システムの業務内容をはじめ、ベンダー間のインターフェース仕様、システム連携の方法、データセット項目など、広範囲にわたる検討が求められます。そのような中で、日本薬剤師会専門委員会の委員として参画することで、実際に薬局でシステムを活用されている委員の皆様のご意見を伺いながら、標準化分科会および各ベンダーとの関係構築に貢献できればと願っております。

最後に、これまでご指導いただきました調剤システム委員会ならびに標準化分科会の皆様に、心より感謝申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会 調査研究事業 「医療DXにおける令和6年度診療報酬改定の振返り」の完遂	記載要領電子化WG サブリーダー 富士通Japan(株) いしかわ こうじ 石川幸司 
--	---

受賞理由：

1. 一般財団法人 医療保険業務研究協会・令和6年度受託事業（調査研究事業）「医療DXにおける令和6年度診療報酬改定の振返り」において、リーダーが繁忙な中、サブリーダーとして自ら率先して具体的な提案・運営を行う等、本研究を主導した。その成果として約70頁におよぶ論文をまとめ、活動を完了した。
2. 今年度実施した会員アンケート調査 「令和6年度診療報酬改定（施行日の2か月後ろ倒し）の影響」について、企画・実施・取りまとめの実施にあたり、チームを主導し、主体的に活動した。当該アンケートは、41項目/件の設問に対して、有効回答数593件（117社）と規模の大きいものであり、実際に診療報酬改定対応作業に関わった作業員において、診療報酬改定DX施策である「2か月後ろ倒し」がどのような影響を与えたかを客観的に知る上で価値のあるものとなり、その分析結果を研究成果（論文）になるようにまとめた。
3. 本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省はじめ関係機関および一般に公開されることになっており、JAHISのプレゼンス向上への貢献とともに、JAHIS会員が今後の診療報酬改定対応作業を行うための環境改善に向けても十分に貢献するものとなっている。

石川幸司さんのコメント：

この度は功績賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、私一人の力で成し遂げられたものでは決してありません。リーダーの柴田さんをはじめ、WGメンバーの皆様、論文作成にあたり、多大なるご尽力を賜りました株式会社社会保険研究所の高橋様、井口様、そしてJAHIS事務局の前田部長に、心より感謝申し上げます。皆様の知識とご協力なしには、今回の論文を完成させることはできませんでした。

今回の論文では、診療報酬改定の施行日を2か月後ろ倒しにしたことによる影響について調査いたしました。大規模なアンケート調査を実施することで、多数のベンダ様から貴重なご意見をヒアリングすることができ、客観的な評価を行うことができました。ご協力いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、来年度も新たな論文の執筆に積極的に取り組んでいく所存です。

功績賞 医事コンピュータ部会 会員サービス向上に向けた マスタ委員会活動への貢献	マスタ委員会 委員 ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株) なかじま みわ 中嶋 美和 
--	--

受賞理由：

1. 令和6年度診療報酬改定にて施行された「長期収載品の選定療養」について、保険請求で必要となる情報が複数のマスタに点在する状況であったため、JAHIS医薬品マスタのオプションファイル（YJコード変換テーブル）への一元化を検討した。レイアウト案の作成、開発元との調整を積極的に行い、JAHIS医薬品マスタの利便性向上を実現させ、会員サービスの向上に貢献した。
2. 一般社団法人医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）にて設置する「個別医薬品コード（YJコード）リスト」審査委員会において、オブザーバーとして参画し、個別医薬品コード（YJコード）の標準化の推進に貢献した。
3. マスタ委員会開催においては、医薬品マスタや保険者番号辞書の更新状況を毎回資料にまとめ、会員へ情報を展開し、各社の対応漏れ防止に努めた。

中嶋美和さんのコメント：

この度は、2025年度定時社員総会での表彰、ありがとうございます。

今回は、マスタ委員会副委員長所属時の受賞となります。

JAHIS医薬品マスタの担当しており、令和6年10月の長期収載品の選定療養改定に伴うカラム追加等、会員会社様に有益となる情報の付加を行ってまいりました。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、医療DXの実現に向けた取り組みを行っていききたいと思います。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準「JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5 (MDS/SDS)」改定等	セキュリティ委員会 開示説明書WG リーダー ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株) む しゃ よし の り 武者 義則 
--	---

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-005「JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5.0（MDS/SDS）」の改定作業を完遂し出版した。
2. 開示説明書WGリーダーとしてチェックリスト改訂、Q&A改訂などの作業をとりまとめ、適切なタイミングで公開を実施した。
3. 標準化セミナーにおいて講師としてJAHIS標準の普及促進活動を実施した。

武者義則さんのコメント：

このたびは、社員総会という意義深い場で表彰いただき、誠にありがとうございます。2024年4月より、セキュリティ委員会

JAHIS-JIRA合同開示説明書WG（以下、本WG）のリーダを務めております。

本WGでは、MDS/SDSチェックリストの標準フォーマットの作成を通じて、医療機関・薬局のサイバーセキュリティの確保に貢献することを目指しています。近年、医療機関・薬局に対するサイバー攻撃が深刻化する中、厚生労働省は、2023年4月に医療法施行規則及び薬機法施行規則を改定して医療機関・薬局へサイバーセキュリティの確保を義務化、2023年5月には「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（以下、安全管理ガイドライン）」を第6.0版に改定、立入検査で確認するサイバーセキュリティ対策チェックリスト（以下、対策チェックリスト）を毎年更新するなど次々と施策を打ち出しています。

そして、安全管理ガイドラインでは医療機関等と医療情報システム・サービス事業者（以下、ベンダー）間のリスクコミュニケーションが求められ、MDS/SDSの活用を例示しています。また、対策チェックリストではMDS/SDSの授受を求めています。本WG活動はその実現を支える重要な役割を担っており、責任の重さを実感しています。

今後も、本WGでは安全管理ガイドラインの改定に応じたMDS/SDSチェックリストの標準フォーマット改定や、JAHISセミナーの講演を通じたMDS/SDSの周知・啓発を継続していきます。さらに、ベンダーの皆様のMDS/SDS作成支援となるよう、JAHIS窓口やJAHISセミナーのアンケートに寄せられたご質問への対応と、それを反映したQ&A集の拡充を行ってまいります。これらの取り組みを通じて、医療機関・薬局とベンダーの皆様とのリスクコミュニケーションを促進し、その先にいる患者さんへの地域医療サービスの継続性確保に少しでも貢献できれば幸いです。

なお、2025年1月にMDS/SDSチェックリストが厚生労働省標準規格に認定され、今後のさらなる普及が期待されています。本WG活動の重要性も一層高まっていると感じております。

最後に、JAHIS及び（一社）日本画像医療システム工業会（JIRA）のメンバーに加え、（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）及び（一社）日本クラウド産業協会（ASPIC）の皆様にも多大なるご協力をいただきました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準「リモートサービス セキュリティガイドラインVer.4.0」の制定等	セキュリティ委員会 リモートサービスセキュリティWG リーダ サイバートラスト(株) まつもと よしかず 松本 義和 
--	---

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-004「リモートサービス セキュリティガイドライン Ver.4.0」の改定作業を完遂し出版した。
2. リモートサービスセキュリティWGリーダとして適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. 審査支払基金、医政局、消防庁などからの依頼によるリスクアセスメントに協力し、適切なフィードバックを実施した。

松本義和さんのコメント：

この度は第15期定時社員総会において功績賞をいただき、誠にありがとうございます。長年にわたるWGメンバーの多大なご協力があったの表彰であり、WGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

JAHIS標準「リモートサービスガイドライン」は初版から20年が経ちました。最新版では、リモート保守に関するリスクアセスメントの手法を紹介するとともに、SLA（サービスレベル合意書）とSDS（医療情報サービスを対象とした医療情報セキュリティ開示書）の作成についても詳細な解説をしています。また、このJAHIS標準は、医療機関や医療サービスベンダのみならず、介護や救急医療など広い分野で活用いただいています。医療情報システムに係わる安全性と安定性の向上に寄与できれば幸いです。

リモートサービスの不備に起因するセキュリティ事故が発生してしまったことを真摯にとらえながら、このJAHIS標準の普及・啓発活動にも努めていく所存です。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	セキュリティ委員会 電子保存WG リーダ 日本電気(株) こんどう まこと 近藤 誠 
JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0Cの制定 JAHIS標準「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.5」の策定等	

受賞理由：

1. JAHIS標準 24-006 「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.5」の改定作業を完遂し出版した。
2. 電子保存WGリーダーとして適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. JAHIS会誌への寄稿など、JAHIS標準の普及推進に貢献した。

近藤誠さんのコメント：

この度は、第15期定時社員総会で表彰頂き、大変光栄に思います。今回、表彰を頂けたのは、WGメンバー並びに関係者の多大なご協力があったからこそです。深く感謝申し上げます。

JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインは、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」（以下「安全管理ガイドライン」とします）のセキュリティ要件に対応するための「システム実装する場合に役立つ対応策」と「運用で実現する場合の対応策」についてまとめたJAHIS標準です。今回の改訂は安全管理ガイドライン第6.0版に対応したものとなります。

今後は、安全管理ガイドラインの改訂に追従して、セキュリティ要件のシステム実装や運用での実現策を充実させるとともに、本ガイドラインを含めた、JAHIS標準、技術文書の普及を図っていくことで、ヘルスケア分野のセキュリティ確保に対して貢献できれば幸いに存じます。引き続き皆様からのご支援、ご協力を頂くと共に、「JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインver.5」の活用についても、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	部門システム委員会 臨床検査システム専門委員会 臨床検査データ交換規約改定WG リーダ (株)エイアンドティー ちば のぶゆき 千葉 信行 
JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0Cの制定	

受賞理由：

1. 臨床検査データ交換規約改定WGリーダーとして改定作業をリードし、2024年7月にJAHIS標準「JAHIS臨床検査データ交換規約Ver.5.0C」を制定した。改定に関しては、「JAHIS データ交換規約（共通編）Ver.1.3」及び他のデータ交換規約個別編、IHE-PaLMテクニカルフレームワーク等との整合性確保、日本HL7協会発行「HL7V2.5日本語訳見直し版」の反映を行った。
2. IHE-PaLMテクニカルフレームワークとの整合においては分析機に特化したLAWプロファイルで採用されたトランザクショ

ンを本規約に収載した。LAWプロファイルでは実用上の利便を図ってHL7の新しい版（Ver.2.9など）で追加されたセグメント、フィールドを多く採用している。HL7 Ver2.5を基本とするJAHISデータ交換規約への反映の方法に苦慮する場面もあったが、本規約に収載したことで日本の分析機及び臨床検査システム関係者の実装への貢献が期待できる。

千葉信行さんのコメント：

このたび、「JAHIS臨床検査データ交換規約5.0C」の策定において、臨床検査データ交換規約改定WGのリーダとして表彰を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。まずは、WGメンバーをはじめ、JAHIS関係者の皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

本WGでは、臨床検査業務におけるメッセージの標準化をさらに推進するため、既存規約の課題を洗い出し、現場のニーズや技術的進展を踏まえた改定を行いました。特に今回は、IHE-PaLMDメインで策定された分析機に特化したLAWプロファイルのメッセージを新たに収載することで、オーダーエントリーから検査室内の分析機までをカバーする規約となり、より実務に即した内容となったと考えております。

WG活動を通じて、異なる立場のメンバーとの議論を重ねることで、多様な視点を取り入れた規約づくりができたことは大きな成果であり、私自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

今後は、策定した規約の普及と現場での実装支援に力を入れてまいります。標準化は策定して終わりではなく、現場で活用されて初めてその価値が発揮されます。JAHIS会員の皆様には、ぜひ現場の声をお寄せいただき、共により良い医療情報環境の構築を目指していければと願っております。

最後に、今回の表彰はWGメンバー全員の努力の賜物です。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。今後ともJAHISの活動に積極的にに関わり、医療情報の標準化に貢献してまいります。

功績賞 標準化推進部会 HIMSS調査報告書執筆・編集・公開による JAHIS国際活動拡大への貢献	国際標準化委員会 副委員長 日本アイ・ピー・エム(株) い で だいすけ 井出 大介 
---	--

受賞理由：

- 2024年3月に米国オーランドで開催されたHIMSS24に現地参加し、医療従事者、IT専門家、政策立案者等によるセッションを受講・学習し、調査報告書を自ら執筆するとともに、自らを含む5名の執筆者による原文のとりまとめや編集に貢献した。（報告書作成期間：2024年4月～7月）
- 149ページに及ぶ調査報告書は、初稿作成→クロスチェック→マージ→最終校閲→発行というプロセスで作成したが、所属企業が異なる5名の執筆者が効果的に高品質な作業を行うことができたのは、クラウド上にプロセス毎の作業スペースを設定し、提供してくれた井出氏の貢献が大きい。
- 調査報告書には、米国を中心とした医療情報システムの最新技術動向や課題、相互運用性、最近3年間のHIMSSの変遷等が記載されており、JAHISホームページ※で公開されている。この公開によって、JAHIS会員をはじめ、医療情報関係者にも活用されることが大いに期待される。（※JAHISホームページトップ>部会情報>標準化推進部会>国際活動）
- HIMSS開催地にて、産・学・官とのネットワーク強化を行い、JAHISのプレゼンス向上にも貢献した。なお、井出氏は2025年3月に米国ラスベガスで開催されたHIMSS25にも現地参加しており、報告書は2025年8月に公開予定で作成中。

井出大介さんのコメント：

この度は第15期定時社員総会において功績賞を表彰いただき、誠にありがとうございます。2019年より国際標準化委員会の活動に参加致しましたが、ちょうど世界的なパンデミックのタイミングと重なってしまい、海外渡航が可能となるまでの間、長らくJAHISとしての活動・貢献を果たすことができませんでした。

2024年に初めてオランダで開催されたHIMSS24の視察に参加し、各国におけるこのパンデミックが、医療政策・医療システムへの取り組みを変革させる、大きな潮目となったことを肌で感じました。カンファレンスの詳細につきましては、是非とも視察メンバーと執筆致しました「HIMSS24 調査報告」をご一読いただけますと幸いです。

今後も当委員会での活動を通じて、国際エキスパートとして第一線で活躍される委員の皆様のように、国内および国際的な標準化活動に寄与できる人材へと成長できるよう、研鑽を積み重ねてまいります。引き続きのご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

功績賞（連名）

医療システム部会

DICOM Standard Committee日本開催（JAHIS・JIRA合同）の貢献



部門システム委員会 委員長
(株)日立ハイテク

ふくしげ ふみお
福重 二三男

部門システム委員会
副委員長
シスメックスCNA(株)

こんどう めぐみ
近藤 恵美

部門システム委員会
DICOM WG 委員
富士フイルム(株)

むら た まさお
村田 公生

受賞理由：

- 7年ぶりに開催されたDSC日本開催の成功に貢献した。イベントは3日間にわたり、初日はWG10とWG29、2日目にDSC、3日目にはJapan Dayが行われ、参加者は36名、そのうち海外からの参加者は8名であった。この成功により国際的な交流が実現された。
- DSC開催に向けて、数か月前から入念に準備を進めた。多くの打ち合わせと準備物の確認を行い、イベント当日は計画的な運営とおもてなしを実施した。
- 国内外にわたるJAHISの活動を効果的にアピールすることができた。特に3日目では、日本国内での取り組みについて発表し、JAHISからは組織紹介をはじめ、内視鏡関連や病理関連のトピックを紹介する場を設けた。

福重二三男さん、近藤恵美さん、村田公生さんのコメント：

この度は、DICOM Standard Committee（以下、DSCという）日本開催（JAHIS・JIRA合同）に対して、功績賞という栄えある賞をいただき、大変嬉しく思います。

DSCは年に3回開催されるDICOMの方針を検討・決定する会議で、毎年12月は米国で米国放射線学会に合わせて開催されますが、それ以外の2回はメンバーの国持ち回りで開催されます。2024年9月は日本で開催されることになり、数カ月前からJIRAと協力して入念な準備を行い、開催いたしました。準備は、会議室の確保、参加者の確認、コーヒーやおやつ準備、当日の会場設営、ビル1Fから会議室までの案内、懇親会の手配、JIRA/JAHISの費用負担の調整まで多岐にわたり

ました。さらに日本で開催するのに日本の参加者が少なかったら体裁が悪いと考え、JAHIS内で広く参加を募ったりもしました。懇親会は、来日メンバーに日本食を楽しんでもらえるようなお店を選び、下見にも行きました。そのかいあってか、参加した皆様、とても楽しそうでした。

DSC日本開催は、我々だけでなしたことはありません。事務局の皆様、ご参加いただいた皆様のご協力なしでは成功できなかったと思います。あらためて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回いただいた功績賞を糧に、今後も国際交流を含め、JAHIS活動に邁進してまいりたいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

功績賞（連名）	事業推進部		
日本薬剤師会学術大会併設IT機器出展規模拡大への貢献		日薬展示委員会 副委員長 東日本メディコム(株) にしむら ひさお 西村 寿夫	
		日薬展示委員会 副委員長 ウィーメックス(株) おおさく み 大作 はる美	日薬展示委員会 副委員長 (株)ユニケソフトウェアリサーチ やまもと ゆうき 山本 祐樹 

受賞理由：

1. 第57回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（埼玉県さいたま市）において、埼玉県薬剤師会との交渉等を経て、出展会場内のJAHIS出展エリア確保増に寄与した。結果、JAHISとして出展社数20社（フリーブース：460㎡、スタンダードブース：27小間）を確保できた。特にフリーブースにおいては、過去最大規模であった第50回東京大会を超える出展規模（東京大会フリーブース：420㎡）となった事により、大会参加者の動員に大きく貢献できた。
2. 本大会では日本薬剤師会からの依頼により、電子処方箋のデモンストレーション出展募集への協力依頼があり、出展各社への案内発信等を行い、3社の募集を得た。IT機器展示会場では、日本医師会等共同で医科システムと調剤システムを電子処方箋管理サーバのテスト運用環境を用いて連携し、電子処方箋の発行（医療機関）、受付（薬局）、調剤結果の登録（薬局）、調剤結果の閲覧（医療機関）という一連の流れのデモンストレーションを実施した。多くの来場者が電子処方箋に対する一連の流れが確認できた事で大変盛況となり、関係団体に対しJAHISのプレゼンスを高める事が出来た。
3. 並行して、「第58回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（京都府京都市）」、「第59回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（新潟県新潟市）」に向けて、京都府薬剤師会や新潟県薬剤師会へアプローチを行い、来年度以降の委託継続の足掛かりを作った。

西村寿夫さんのコメント：

この度は2025年定時社員総会におきまして功績賞の表彰をいただき誠にありがとうございます。賞選考に関わった皆様に厚く御礼申し上げます。

事業推進部日薬展示委員会の活動は、毎年秋に開催される日本薬剤師会学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当させて頂くことです。この活動の起点として学術大会の開催年の前年の3月頃に開催地の薬剤師会様を訪問し、

JAHISの活動内容と過去の開催実績等を紹介し学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当させて頂く交渉から始まります。この交渉にてJAHISに任せて頂く了承を得られると、開催年に開催地の薬剤師会様を3回程訪問し、IT機器展示会への参加企業様の出展規模や実際の展示会場における配置図等の説明と了承を得て日本薬剤師会学術大会でのIT機器展示会の運営全般をJAHISにて担当することとなります。

昨年の第57回大会は埼玉県での開催、そして今年の第58回大会は京都府での開催でその作業に当たっているところです。また、来年の第59回大会は新潟県での開催ですが既に1回目の訪問を終えJAHISにて担当させて頂くことで了承が得られています。

日薬展示委員会の活動は事業推進部の収益事業の柱のひとつとして大きな役割を担っており、今後も誠意をもって開催地の薬剤師会様との交渉を行い事業推進部の収益に貢献していきたいと思っています。

山本祐樹さんのコメント：

この度は2025年提示社員総会にて表彰を頂き、誠にありがとうございました。

ご協力頂いたメンバーの方々、及び賞にご推薦頂いた皆様へ御礼申し上げます。

開催回数としてすでに57回を数える歴史とそれにふさわしい開催規模を誇る日本薬剤師会学術大会において、IT機器展示コーナーの運営にあたり、出展社及び薬剤師会様との取りまとめを行うのが、当委員会の主目的です。

昨今、特に医療DXの進展は目まぐるしく、医療に携わる方々にとってもその変化をそのスピード感についていくのが困難になっているのが現況かと考えます。

そんな中第57回の日本薬剤師会学術大会ではさいたまスーパーアリーナという規模、アクセスとも絶好の環境で、埼玉県薬剤師会様の意欲的な運営もあり、過去最大規模の盛況となったことは誠に嬉しく思います。特に日本薬剤師会からの依頼により実施した電子処方箋を体験するための出展募集では、実際に電子処方箋がどのようなフローで運営されているのか実体験ができるコーナーを設け、参加した薬剤師に「今起きている変化を体験」する機会を提供したことで、大きな関心を集めることができました。当ブースが大変盛況であったことはJAHISの運営能力、出展各社へのアプローチ力などを改めて評価頂ける機会になったのではと考えております。

また日薬展示委員会での活動も2年目ですが皆様のご指導・ご鞭撻をいただき、学びながら、大会及びJAHISの活動の発展に貢献できるよう尽力いたします。

この度はありがとうございました。

功績賞（グループ）		戦略企画部			
JAHIS2030ビジョン（改訂版）発行				企画員会 委員長 ウィーメックス(株)	
				にしむら たけとし 西村 剛敏	
副委員長 日立製作所(株) こくぶ よしのり 国分 令典		委員 (株)シーエスアイ にいざと まさのり 新里 正則		委員 富士通Japan(株) もりもと たくと 守本 拓人	
				委員 日本電気(株) なかた ひでお 中田 英男	
委員 富士通Japan(株) やまうち としゆき 山内 俊幸		委員 富士通Japan(株) おぎの やすはる 荻野 康晴		委員 ウィーメックス(株) たむら かつのり 田村 勝則	
				委員 日本アイ・ピー・エム(株) しもやま あかぎ 下山 赤城	
委員 キヤノンメディカルシステムズ(株) きど すみこ 木戸 須美子		委員 富士フイルム(株) みつぎ もとひろ 光城 元博		委員 (株)NTTデータ なかみつ たかし 中光 敬	
				委員 キヤノンメディカルシステムズ(株) たなか としお 田中 利夫	
委員 日本電気(株) あらがき よしひと 新垣 淑仁		委員 日本電気(株) なみかわ ひろかず 並川 寛和		委員 日本電気(株) ふくま こうじ 福間 衡治	



受賞理由：

- 健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現をめざした「JAHIS2030ビジョン」の改訂版策定を企画し、1年半にわたる検討を重ね、JAHIS創立30周年記念イベントにあわせて2025年1月に発刊した。
- 発刊した「2030ビジョン（改訂版）」により以下が可能となると考える。
 - ①国民のために真に役立つ保健医療福祉情報システムのビジョンの内外への提示
 - ②保健医療福祉情報システムのビジョンを基に、関連団体・関連機関と議論・討論を活性化し、社会全般の情報化推進活動との整合性を確保
 - ③ビジョン実現に向けたJAHIS各委員会活動の目標設定や活動の指針として活用

西村剛敏さんのコメント：

この度は、功績賞グループ表彰をいただきまして誠にありがとうございます。JAHIS2030ビジョン（改訂版）は企画委員会のメンバーが一丸となって取り組んだプロジェクトです。前回のビジョンから今回の内容や媒体の検討、製作を進めるにあたり二人三脚で取り組んでいただく制作会社の選定も含め、メンバーで要件を取りまとめながら進めてきました。

発行計画から1年6か月にわたる期間の中で、企画委員会のメンバー交代もありましたが、当初の目標通り、本年1月に発行を迎えることができました。原稿のレビューをはじめ、発行までの間に各部会、各委員会の皆様からご協力をいただいた賜物でもあります。この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

また、JAHIS2030ビジョン（改訂版）はJAHISの活動指標であることだけでなく、より多くの国民、JAHISに関わる各団体の皆様にも認知、周知いただけるよう企画委員会では展開活動に取り組んでまいります。企画委員会のこれからの活動につきましても、引き続き皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

運営会議状況報告

2024年度 第10回運営会議議事録

<日時>：2025年1月21日（火）15:00～17:10

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- (1) 日本HP社主催医療情報交換会（医療セミナー）講演依頼の件
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏の講師派遣が承認された。
- (2) ナイス社の販売パートナー向け医療DX勉強会講演依頼の件
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏の講師派遣が承認された。
- (3) 厚生労働省「ケアプランデータ連携の更なる活用に向けた調査研究」検討委員会への委員派遣の件
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏の委員派遣が承認された。

2. 2024年度第2回定例理事会について

2024年度第2回定例理事定例理事会における議案・資料が承認された。

3. 保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 地域医療連携画像検討WGサブリーダー交代の件

原昌司氏の退任に伴い、平松浩氏をサブリーダーとして選出することについて部会での互選結果を踏まえ、承認された。

2024年度 第11回運営会議議事録

<日時>：2025年2月18日（火）15:00～17:45

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- (1) 厚生労働省「AIを活用したケアプラン作成支援に係るケアプランデータの利活用に関する調査研究」実証研究
委員会の委員受嘱の件
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 葛巻弥生氏の委員派遣が承認された。
- (2) 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナーへの演者派遣の件
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド輸血編WG 天満一宏氏の演者派遣が承認された。

2. 2025年度特別委員委嘱

以下の各部会からの特別委員委嘱願いについて承認された。

(1) 戦略企画部

長谷川英重氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）

西原栄太郎氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）

(2) 標準会推進部会

喜多紘一氏（安全性・品質企画委員会）、

中里俊章氏（国際標準化委員会）

長谷川英重氏（国際標準化委員会）

松元恒一郎氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）、

平井正明氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）

谷内田益義氏（国際標準化委員会）

(3) 医療システム部会

藤咲喜丈氏（部門システム委員会 放射線治療 WG および検査レポート検討 WG）

香坂浩之氏（部門システム委員会 放射線治療 WG および DICOM WG）

鈴木一洋氏（部門システム委員会 放射線治療 WG）

石黒厚至氏（部門システム委員会 外注検査データ交換ガイド作成 WG）

喜多紘一氏（セキュリティ委員会）

平田泰三氏（セキュリティ委員会）

宮崎一哉氏（セキュリティ委員会）

谷内田益義氏（セキュリティ委員会 HPKI 電子署名規格作成 WG）

長谷川英重氏（セキュリティ委員会）

(4) 保健福祉システム部会

西原栄太郎氏（健康支援システム委員会）

3. 事業企画推進室副室長の委嘱の件

新垣淑仁氏を戦略企画部 事業企画推進室副室長に委嘱することが承認された。

4. 谷口浩一氏の継続雇用について

谷口浩一氏の 2025 年度の雇用契約を行い、HELICS 事務局関連業務を担当することが承認された。

5. 対外活動・国際活動の減員の扱いについて

対外活動の部会活動指名者、および国際標準化団体への派遣者の減員については、運営会議での報告事項とすることについて承認

6. 2025 年度外部学識経験者への国際標準化活動参加依頼の件

下記 3 名の外部学識経験者の国際標準化活動への参加が承認された。

川崎医療福祉大学 木村通男先生

帝京大学 澤智博先生

一般社団法人医療データ活用基盤整備機構 岡田美保子先生

7. 2025 年度国際標準化団体への派遣者リストの件

2025 年度国際標準化団体への派遣者リストの内容について承認された。

8. ISO/TC215 TF5 および JW3 の国内事務局に関する依頼について

標準化推進部が国内事務局の業務を受けることについて承認された。

9. 医事コンピュータ部会 介護システム委員会副委員長選出について

葛巻弥生氏を介護システム委員会 副委員長として選出することが承認された。

2024 年度 第 12 回運営会議議事録

<日時>：2025 年 3 月 18 日（火）15:00～17:25

<場所>：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

厚生労働省「健康・医療・介護情報利活用検討会 医療等情報利活用ワーキンググループ」医療機関の運用に関する技術作業班への委員派遣の件

構成員総数 40 名中 36 名の賛成により、戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏の委員派遣について承認された。

2. 対外活動申請

(1) 国保中央会「障害者総合支援事務処理システム検討会」への委員派遣の件

保健福祉システム部会の下記8名の委員派遣について承認

金本昭彦氏（福祉システム委員会委員長）

中谷陽介氏（障害者総合支援WG リーダ）

鴻谷則和氏（障害者総合支援WG サブリーダ）

入江徹氏（障害者総合支援WG）

長井陽菜氏（障害者総合支援WG）

長尾竜一郎氏（障害者総合支援WG）

山下隆二氏（障害者総合支援WG）

小島剛氏（障害者総合支援WG）

(2) 社会保険研究所発行書「社会保険旬報」への寄稿の件

戦略企画部の下記3名による寄稿活動について承認された。

山内俊幸氏（戦略企画部 部長）

西村剛敏氏（企画委員会 委員長）

小林俊夫氏（事業企画推進室 室長）

3. 2025年度事業計画・予算計画の暫定承認の件

2025年度の事業計画・予算計画について説明がされ暫定承認がされた。

4. 社員総会に係る定款の改定について

定款改定内容について確認し、5月14日の定例理事会で協議、総会での審議事項とすることが承認された。

5. 医療システム部会 副部会長の交代について

松谷正俊氏の辞任に伴い、富田茂氏を医療システム部会 副部会長として選出することについて承認された。

6. 部門システム委員会 DICOM WG リーダ互選の件

立石貴代子氏をDICOM WGリーダとして選出することについて承認された。

7. 2025年度特別委員委嘱の件（保健福祉システム部会）

西原栄太郎氏の健康支援システム委員会への特別委員委嘱について承認された。

2025年度 第1回運営会議議事録

<日時>：2025年4月22日（火）15:00～17:36

<場所>：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

第26回日本医療情報学会看護学術大会への協賛の件

構成員総数40名中38名の賛成により、看護学術大会への協賛について承認された。

2. 対外活動申請

(1) 創和ビジネス・マシンズ社主催「SBM総合ソリューションフェア」の講演の件

事業企画推進室 室長 小林俊夫氏の講師派遣が承認された。

(2) 厚生労働省「事業者・自治体間の障害福祉関係手続きの共通化に向けた調査・要件定義等委託事業検討会」への委員派遣の件

保健福祉システム部会福祉システム委員会委員長 金本昭彦氏の委員派遣について承認された。

3. 2025年度第1回定例理事会の議案等について

2025年度第1回定例理事会の議案・資料について確認し、承認された。

4. 2025年度特別委員委嘱願いについて（医療システム部会）
松元恒一郎氏のセキュリティ委員会 特別委員委嘱について承認された。
5. 2024年度表彰者選考の件
下記のとおり、2025年度表彰者選考結果について承認された。
個人表彰 13名、連名表彰 9名、グループ表彰 16名
6. 役職による役割分担リストの更新の件
2025年4月1日付での役職更新について承認された。
7. 2025年度情報システム機能強化の件
2025年度予算におけるシステム改修機能範囲について承認された。

2025年度 第2回運営会議議事録

<日時>：2025年5月20日（火）15:00～17:12

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- (1) 名古屋大学「2025年名古屋医療情報学プログラム（NCIP）」への講師派遣の件
以下の5名の講師派遣について承認された。
戦略企画部 部長 山内俊幸氏
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏
標準化推進部会 普及推進委員会 委員長 田中宏明氏
医事コンピュータ部会 森本健一氏
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏
- (2) 厚生労働省「労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」普及促進活動検証委員会への委員派遣の件
以下の2名の委員派遣について承認された。
戦略企画部 部長 山内俊幸氏
医事コンピュータ部会 前田利勝氏
- (3) 一般財団法人 医療情報システム開発センター「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」への委員委嘱の件
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会委員長 佐藤孝昭氏の委員委嘱について承認された。
- (4) 厚生労働省「セルフメディケーション推進のためのOTC医薬品データの利活用に係る研究」における研究班会議への研究協力者委嘱の件
医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 調剤標準化分科会リーダー 守屋和昭氏の研究協力者としての派遣について承認された。
- (5) 一般財団法人 医療情報システム開発センター「看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース」への委員委嘱の件
以下の2名の委員派遣について承認された。
医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏
医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 看護情報WGリーダー 汐崎弘子氏
- (6) 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）社会活動部会 医療IT WGへのオブザーバ参加の件
以下の2名のオブザーバ参加について承認された。
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏
医療システム部会 セキュリティ委員会 副委員長 有馬一閣氏

2. 事務局長公募の件

真野事務局長の帰属会社退職に伴う後任の公募を行うことが承認された。

また、後任引継ぎのための真野事務局長の任期延長が承認された。

3. 事業推進部 副部長の交代の件

塩川英二氏の辞任、および小柳出光宣氏への副部長委嘱について承認された。

2025年度 第3回運営会議議事録

<日時>：2025年6月17日（火）15:00～17:**

<場所>：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

GDDA（グローバルデジタル産業アライアンス協会）へのセミナー講師派遣の件

構成員総数40名中26名の賛成により、保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 井上裕之氏の講師派遣について承認された。

2. 対外活動申請

(1) 電子処方箋等検討ワーキンググループ 構成員 活動期間更新の件

事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏の構成員活動の期間更新について承認された。

(2) 「メディカルDX・ヘルステックフォーラム2025」への後援の件

「メディカルDX・ヘルステックフォーラム2025」への後援について承認された。

(3) 一般財団法人 医療情報システム開発センター「歯科分野の標準化委員会」の委員委嘱の継続の件

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 小森一秀氏の委員委嘱期間の継続について承認された。

(4) 株式会社三菱総合研究所「介護情報基盤の活用促進を見据えたケアプランデータ連携効果測定等事業一式」検討委員会の委員派遣の件

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏の委員派遣について承認された。

(5) 第26回日本医療情報学会看護学術大会の実行委員の委嘱の件

医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏、同委員会 看護情報WGリーダー 汐崎弘子氏の委員委嘱について承認された。

(6) 第27回日本医薬品情報学会総会・学術大会への演者派遣の件

医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員長 木村潤氏の演者派遣について承認された。

委員派遣ならびに協賛・後援等 (2025年1月～2025年6月 申請承認)

【委員派遣・研究会等】

1. 株式会社三菱総合研究所 (25-01-003)

令和6年度老人保健健康増進事業「ケアプランデータ連携の更なる活用に向けた調査研究」検討委員会 委員

2025年1月21日～2025年3月31日

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山 仁

2. 株式会社国際社会経済研究所 (25-02-001)

令和6年度老人保健健康増進事業「AIを活用したケアプラン作成支援に係るケアプランデータの利活用に関する調査研究」実証研究委員会の委員受嘱について

2025年2月18日～2025年3月31日

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 葛巻 弥生

3. 厚生労働省 医政局 (25-03-001)

健康・医療・介護情報利活用検討会 医療等情報利活用ワーキンググループ

医療機関の運用に関する技術作業班 委員

2025年3月13日～期限未定

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

4. 公益社団法人国民健康保険中央会 (25-03-003)

障害者総合支援事務処理システム検討会 委員

2025年4月1日～本検討会が終了するまで

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

同 委員会 障害者総合支援WG リーダ 中谷 陽介

同 WG サブリーダー 鴻谷 則和

同 WG 委員 入江 徹

同 WG 委員 長井 陽菜

同 WG 委員 長尾 竜一郎

同 WG 委員 山下 隆二

同 WG 委員 小島 剛

5. 株式会社三菱総合研究所 (25-04-002)

事業者・自治体間の障害福祉関係手続の共通化に向けた検討会 委員

2025年4月22日～2026年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

6. 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 (25-05-002)

厚生労働省「労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」の普及促進活動検証委員会 委員

2025年5月20日~2026年3月24日

医事コンピュータ部会 事務局 部長 前田 利勝

7. 一般財団法人医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (25-05-003)

口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会 委員

2025年5月20日~2026年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤 孝昭

8. 立命館大学薬学部 医薬政策・評価学研究室 (25-05-004)

セルフメディケーション推進のためのOTC医薬品データの利活用に係る研究における研究班会議 研究協力者

2025年5月20日~2026年3月31日

医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 調剤標準化分科会 リーダ 守屋 和昭

9. 一般財団法人医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (25-05-005)

看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース 委員

2025年5月20日~2026年3月31日

医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸 須美子

同専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎 弘子

10. 特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会 (25-05-006)

日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) 社会活動部会 医療IT WG オブザーバ

2025年5月20日~2027年3月31日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

同委員会 副委員長 有馬 一閣

11. 厚生労働省 医薬・生活衛生局 (25-06-002)

「電子処方箋等検討ワーキング・グループ」委員

2023年6月~2027年6月

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁

12. 一般財団法人医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (26-06-003)

歯科分野の標準化委員会 委員

2025年6月17日~2026年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 小森 一秀

13. 株式会社三菱総合研究所 (26-06-004)

介護情報基盤の活用促進を見据えたケアプランデータ連携効果測定等〔事業一式〕検討委員会 委員

2025年6月17日~2026年3月31日

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山 仁

14. 第26回日本医療情報学会看護学術大会 (25-06-05)

実行委員

2025年6月26日~2025年6月28日

医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸 須美子
同委員会 看護情報WG リーダ 汐崎 弘子

【講演、寄稿、取材等】(2025年1月~2025年6月 申請承認)

1. 日本HP社主催 (25-01-001)

医療情報交換会（医療セミナー）講師

2025年4月4日

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

2. ナイス社主催 (25-01-002)

販売パートナー向け医療DX勉強会 講師

2025年2月12日

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

3. 一般社団法人日本輸血・細胞治療学会 (25-02-002)

第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナー

演者

2025年5月30日~2025年6月1日

医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド輸血編WG 天満 一宏

4. 株式会社社会保険研究所 (25-03-002)

専門誌「社会保険旬報」 寄稿 5月11日号

2025年3月18日~2025年4月10日

戦略企画部 企画委員会 委員長 西村 剛敏
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫
戦略企画部 部長 山内 俊幸

5. 株式会社創和ビジネス・マシズ (25-04-001)

「SBM総合ソリューションフェア」講演

2025年7月25日

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

6. 名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター (25-05-001)

2025年名古屋医療情報学プログラム (NCIP) 講師

2025年7月1日~2026年1月31日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

7. GDDA (グローバルデジタル産業アライアンス協会) (25-06-001)

GDDAセミナー 講演

2025年6月12日

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 井上 裕之

8. 第27回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (25-06-006)

シンポジウム⑭ 講演

2025年7月6日

医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 専門委員長 木村 潤

【後援・協賛】

(1) 第30回第1種ME技術実力検定試験および講習 (協賛 202502-01)

期間：2025年5月19日~2025年6月21日

主催：公益社団法人日本生体医工学会

(2) 国際モダンホスピタルショー2025 (協賛 202502-02)

期間：2025年7月16日~2025年7月18日

主催：一般社団法人日本病院会 一般社団法人日本経営協会

(3) 第26回日本医療情報学会看護学術大会 (協賛 202503-01)

期間：2025年6月27日~2025年6月28日

主催：一般社団法人日本医療情報学会看護部会

(4) 名古屋医療情報学プログラム (NAGOYA Clinical Informatics Program) (協賛 202504-01)

期間：2025年7月1日~2026年1月31日

主催：名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター

(5) 第29回 日本医業経営コンサルタント学会 香川大会 (後援202505-01)

期間：2025年11月13日（木）～2025年11月14日（金）

会場：サンポートホール高松

主催：公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会

(6) 第46回第2種ME技術実力検定試験 (協賛202505-02)

期間：2025年9月7日（日）

主催：公益社団法人日本生体医工学会

(7) 第8回メディカルジャパン東京 (医療・介護・薬局 Week 東京) (後援202505-03)

期間：2025年10月1日（水）～2025年10月3日（金）

会場：幕張メッセ

主催：RX Japan株式会社

(8) 第12回メディカルジャパン大阪 (医療・介護・薬局 Week 大阪) (後援202505-04)

期間：2026年3月10日（火）～2026年3月12日（木）

会場：インテックス大阪

主催：RX Japan株式会社

(9) 第54回日本医療福祉設備学会 (後援202505-05)

期間：2025年11月28日（金）～2025年11月29日（土）

会場：一橋講堂

主催：一般社団法人日本医療福祉設備協会 (HEAJ)

(10) メディカルDX・ヘルステックフォーラム2025 (後援202506-01)

期間：2025年8月30日（土）

会場：オンラインLIVE配信

主催：メディカルDX・ヘルステックフォーラム2025 実行委員会

新規会員紹介

以下の書面理事会によって、新規会員の入会が承認されました。

第119回書面理事会：2024年12月12日開催

第1号議案 入会承認の件

(株)インフォ・テック

F会員

第120回書面理事会：2025年 3月14日開催

第1号議案 入会承認の件

(株)ディー・ディー・エス

E会員

(株)プライエ

E会員

エヌ・ティ・ティ・データ・カスタマサービス(株)

F会員

(株)mutex

E会員

皆様から、会社概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきました。入会日順に掲載します。

株式会社ディー・ディー・エス (2025年4月1日入会)

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅三丁目9番6号 アルティメイト名駅2nd 8階

TEL: 052-955-6600 (代表)

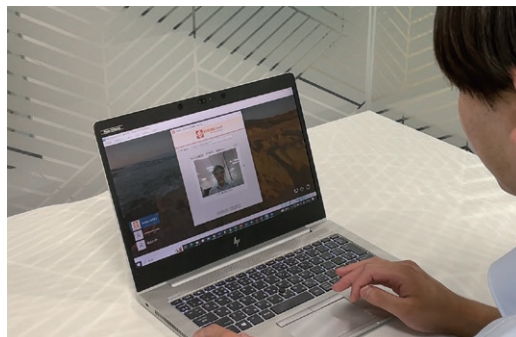
<https://www.dds.co.jp/ja/>

弊社は今年30周年を迎える、生体認証を含む二要素認証プラットフォームを提供している会社です。医療機関だけでなく、官公庁、自治体、教育機関、金融機関、さらには大企業から中小企業まで、幅広い業種のお客様のセキュリティ強化を支援しています。

「記憶」「所持」「生体」といった認証要素を自由に組み合わせることで、ご利用場所やご利用者に合わせた異なる認証方法を一つのシステムで提供しており、弊社の強みは、生体認証である「顔認証」と「指紋認証」のエンジンを自社開発している点です。

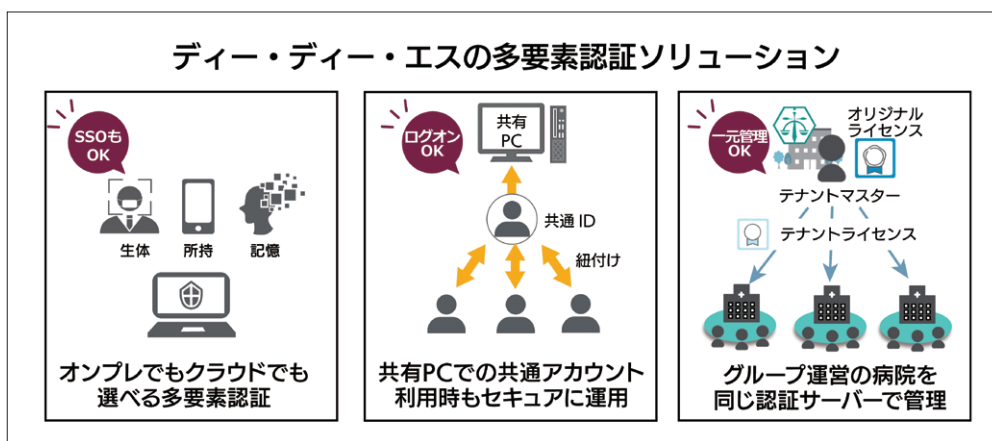
お客様の環境に合わせて、オンプレミス製品である「多要素認証基盤 EVEMA」、「万能認証基盤 Themis」に加え、将来のクラウド活用を見据えた「クラウド認証サービス EVECLOUD」を提供しております。

Windowsログオンだけでなく、各種医療情報システムやアプリケーションとの連携により、本人確認の強化とシングルサ



インオンによる利便性を両立させたソリューションとなっています。

このたびJAHISへ入会することで、最新の医療業界動向を吸収し知見を深めながら、会員企業様との協業や情報交換を通じて、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が掲げる医療情報システムのセキュリティ強化に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



株式会社ブライエ (2025年4月1日入会)

〒140-0013 東京都品川区南大井6-20-14 イーストスクエア大森 4F

TEL: 03-3768-0600 (代表)

<https://www.brigh-e.co.jp/>

株式会社ブライエはテクニカルサポート、ヘルプデスク等のサポート事業を軸にシステム構築、ソフトウェア導入、運用サービスを展開する企業です。私たちはお客様の課題解決や事業成長に貢献するために、お客様の伴走者となることを重視しています。

お客様の期待に応え、価値をお届けするため、新しいアイデアと確かな技術を融合させ、常に一歩先を見据えて挑戦を続けています。

ヘルスケアサービス部では、各事業で培ったIT技術と医療業界の業務知識を組み合わせ、医療機器メーカー様や医療情報メーカー様向けに対しては、製品ソフトウェアの導入支援や製品サポート、医療機関様に対しては、製品ソフトウェア導入後の運用支援、サポートサービスに関東、関西の2つのエリアで提供しております。

今回、JAHISへの入会、活動に参加することで、最新の業界動向を吸収し弊社の知見を高め、医療業界やメーカー様に伴走者として寄り添うことで、JAHIS、医療業界の発展に貢献していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

エヌ・ティ・ティ・データ・カスタマサービス株式会社 (2025年4月1日入会)

〒135-8178 東京都江東区豊洲3-3-9 豊洲センタービルアネックス

TEL: 0422-79-8161

<https://www.nttdatacs.co.jp/>

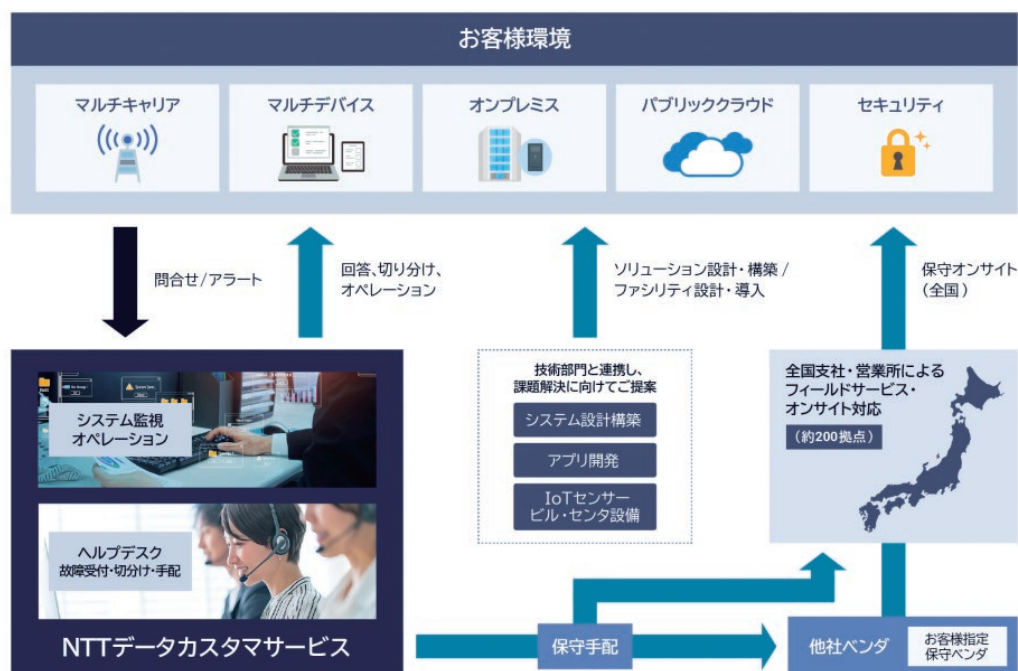
営業本部 第一公共営業部長 富田 茂

当社は、NTTデータが手掛ける官公庁や金融機関の大規模システムの端末系の工事・導入やハードウェア保守サービスを担当する会社として1998年に設立されました。社員数は、2025年4月1日現在1,056名であり、建設業法をはじめ、電気工事士法、電気事業法、建築士法に関連する様々な資格や情報処理技術者の資格を有するカスタマエンジニアが在籍し、全国約200箇所のオンサイトサービス拠点にて、約650台の車両を配置し、全国一元化された工事・保守を高品質にサービス提供しております。なお、工事・保守対象のシステム機器は、国内外のどのようなメーカーにも対応することが可能です。

また、24時間365日、お客様のシステムのサーバーやネットワーク機器を対象に、当社専用の監視センタにて、リモート監視を行うサービスやお客様からの故障申告や問い合わせの受付を行うヘルプデスクも提供をしております。

さらに、建設業法の資格を活かし、データセンタのファシリティ事業も手掛けており、監視カメラシステム、入退室管理システム、太陽光パネルの設置、オフィス構築まで幅広く提供しております。

当社が担う医療福祉分野の事業は、国が推進する医療DX施策により、病院のネットワーク工事をはじめ、電子カルテ等のシステム機器の導入、保守のビジネスが拡大しており、当社として、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策をはじめ、医療情報システムに関する知見を深めるため、このたび、入会させていただくことになりました。何卒よろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

事務局

保健福祉システム部長

 まつたに まさとし
松谷 正俊


2025年4月よりJAHIS保健福祉システム部会の事務局部長に就任しましたNTTデータの松谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は入社してから約8年間にわたり地方公共団体における行財政システムの開発に携わってきました。その後、ヘルスケア部門に異動し、介護保険事務処理システムの開発やケアマネジメント支援システムの企画などを手掛けました。さらに、中央省庁や関連団体における営業として、医療保険分野を中心に審査支払業務やオンライン請求、特定健診などのさまざまな情報システムに関わらせていただきました。

JAHISとの関わりについてです。90年代後半からWG活動に参加し、介護保険制度がスタートした2000年代初頭には介護系のWG活動も経験しました。当時のJAHISには現在のような福祉介護関係の部会は存在しておらず、新たな活動領域としてWGメンバーと奮闘していた懐かしい記憶があります。その後、10年以上のブランクを経て2017年度に保健福祉システム部会の運営幹事に就任、以降、同部会副部長や短期間ながら医療システム部会副部長として活動に携わってまいりました。この間、各部会メンバーの皆様の専門性の高さに感銘を受けながら、多くのことを学び、非常に刺激的な時間を過ごすことができました。

趣味の話になりますが、私は長年にわたりコーヒーを嗜んでいます。豆を選んで手動ミルで挽き、ハンドドリッップで抽出するひとときが何とも言えない癒しの時間です。最近は健康面を考えてカフェインレスコーヒーを楽しむようになりましたが、それでもコーヒーの香りを堪能する時間は至福です。



最後になりますが、これからの活動にあたり、保健福祉システム部会事務局として、部会運営の円滑な推進に努力していきたいと思います。これまでの経験を活かし、皆様のご協力をいただきながら充実した活動を展開していければ嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会の会誌をご覧いただき、誠にありがとうございます。本会の活動にご支援をいただいている皆様に、心より感謝申し上げます。

また、執筆者の皆様におかれましては、ご多忙の中ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございます。

今年の6月は、全国で“史上最も暑い（あつい）6月”となったとのことでした。

子供のころ（半世紀前）は、最高気温が31・32℃と予想された日は、「今日は暑い日になる。」と思った記憶がありますが、今日この頃は、35℃を超える猛暑日が頻発し、地球が温暖化していることが実感されます。（最近では、最高気温が31・32℃と聞くと大して暑くないと思ってしまいます。）

“あつい”と言えば、7月20日に参議院選挙の投開票があり、これまた“熱い（あつい）戦い”が繰り広げられました。

しかしながら、各党の公約は物価高対策（消費税減税、給付金）や年金・医療・介護（年金額底上げ、介護・保育の報酬アップ）や子育て・教育（児童手当拡充、授業料無償化）など、目の前の暮らしに関するものばかりが並び、気候変動などの環境問題に関する対策がほとんど語られていませんでした。（本当は、豪雨などの災害や熱中症はじめ健康問題、農業や水産業への悪影響がもたらす食料品価格の上昇など、諸課題の根底には気候変動があり、喫緊の課題であるはずです。）

そのような昨今の中、JAHISは昨年、JAHIS創立30周年の節目の年を機として「2030ビジョン（改訂版）」を発刊し、その5年前に発刊した「2030ビジョン」を基に、今回はこの5年間で進められた政府施策とその成果や国民の生活環境の変化を全国医療情報プラットフォームの全体像を中心に加味し、検証を深め、その解像度を高めたものとなりました。

今後は、この「2030ビジョン（改訂版）」の達成を目指し、“熱い（あつい）気持ち”をもって、その実現に向け真摯に取り組んでまいります。

会員皆様のさらなるご協力とご支援を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

A.T記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第75号

令和7年8月8日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 寺崎 貴宏
委員 大橋 正
委員 前田 利勝
委員 佐々木 元
委員 柘植 章彦
委員 真野 誠
委員 松谷 正俊
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イブアソシエイツ

